

出題基準

あん摩マツサージ指圧師

專

門

基

礎

分

野

專 門 基 礎 分 野

人体の構造と機能

I 解剖学

大項目	中項目	小項目
1. 人体の構成	A. 細胞	a 細胞の構造 ①核 ②細胞膜 ③細胞小器官 ④細胞骨格 b 細胞分裂と遺伝子
	B. 組織	a 上皮組織 ①分類 ②細胞間結合装置 ③腺上皮 b 支持組織 ①結合組織 ②軟骨組織 ③骨組織 c 筋組織 ①骨格筋 ②平滑筋 ③心筋 d 神経組織 ①神経細胞（ニューロン） ②神経膠細胞 ③シナプス ④髄鞘 e 血液とリンパ
	C. 受精と発生	a 受精 b 卵割 c 着床 d 胚葉の形成 ①外胚葉 ②中胚葉 ③内胚葉 e 胎盤 ①絨毛と脱落膜 ②羊膜 ③臍帯
	D. 人体の区分と方向	a 人体の区分 b 人体の切断面と方向
2. 骨格系	A. 骨格系の概要	a 骨の形状 b 骨の連結 c 関節の種類 d 骨の発生と成長
	B. 脊柱	a 脊柱の構成 ①椎骨の基本形態 ②椎骨の連結 ③脊柱管

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		④椎間孔 b 各部の椎骨 ①頸椎 ②胸椎 ③腰椎 ④仙骨 ⑤尾骨 c 脊柱の弯曲
	C. 胸郭	a 胸郭の体表解剖 b 胸郭の構成 ①胸骨 ②肋骨 c 胸郭の全体像と運動
	D. 上肢の骨格	a 上肢の骨の体表解剖 b 上肢帯の骨 ①鎖骨 ②肩甲骨 c 自由上肢の骨 ①上腕骨 ②前腕の骨 ③手の骨 d 上肢の関節 ①胸鎖関節 ②肩鎖関節 ③肩関節 ④肘関節 ⑤橈骨・尺骨の連結 ⑥橈骨手根関節 ⑦手根骨同士の関節 ⑧手根骨と中手骨との関節 ⑨中手骨と基節骨との関節 ⑩指の関節
	E. 下肢の骨格	a 下肢の骨の体表解剖 b 下肢帯の骨 ①寛骨 ②骨盤 c 自由下肢の骨 ①大腿骨 ②膝蓋骨 ③下腿の骨 ④足の骨 d 下肢の関節 ①股関節 ②膝関節 ③脛骨・腓骨の連結 ④距腿関節 ⑤足根骨同士の関節 ⑥足根骨と中足骨との関節 ⑦中足骨と基節骨との関節

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		⑧指の関節 ⑨足弓
	F. 頭蓋骨	a 頭蓋骨の構成 ①脳頭蓋 ②顔面頭蓋 b 脳頭蓋をつくる骨 ①前頭骨 ②頭頂骨 ③後頭骨 ④側頭骨 ⑤蝶形骨 ⑥篩骨 c 顔面頭蓋をつくる骨 ①鼻骨・涙骨・頬骨 ②上顎骨 ③口蓋骨・下鼻甲介・鋤骨 ④下顎骨 ⑤舌骨 d 顎関節
3. 筋系	A. 筋系の概要	a 筋の付着 b 筋の形 c 筋の神経 d 筋の補助装置 e 筋の作用と運動
	B. 体幹の筋	a 胸部の筋 ①浅胸筋 ②深胸筋 ③横隔膜 b 腹部の筋 ①前腹筋 ②側腹筋 ③後腹筋 c 会陰の筋 d 背部の筋 ①浅背筋 ②深背筋 ③後頭下筋 e 体幹の運動 f 体幹の主要な筋の体表解剖
	C. 上肢の筋	a 上肢帯の筋 b 上腕の筋 ①上腕の屈筋群 ②上腕の伸筋群 c 前腕の筋 ①前腕の屈筋群 ②前腕の伸筋群 d 手の筋（手内筋） ①母指球筋 ②小指球筋

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		③中手筋 e 上肢の運動 ①肩関節の運動 ②肘関節の運動 ③手の関節の運動 f 上肢の主要な筋の体表解剖
	D. 下肢の筋	a 下肢帯の筋 ①外寛骨筋 ②内寛骨筋 b 大腿の筋 ①大腿の伸筋群 ②大腿の屈筋群 ③大腿の内転筋群 c 下腿の筋 ①下腿の伸筋群 ②下腿の屈筋群 ③下腿の腓骨筋群 d 足の筋 ①足背筋 ②母指球筋 ③小指球筋 ④中足筋 e 下肢の運動 ①股関節の運動 ②膝関節の運動 ③足の関節の運動 f 下肢の主要な筋の体表解剖
	E. 頭頸部の筋	a 頭部の筋 ①表情筋 ②咀嚼筋 b 頸部の筋 ①広頸筋 ②胸鎖乳突筋 ③舌骨上筋群 ④舌骨下筋群 ⑤斜角筋 ⑥椎前筋 ⑦項部の筋 c 頸部の主要な筋の体表解剖
4. 循環器系	A. 血管系	a 体循環と肺循環 b 血管の構造 ①動脈 ②静脈 ③毛細血管
	B. 心臓	a 心臓の位置 b 心膜 c 心臓の壁 d 心房と心室

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		e 心臓の弁 f 刺激伝導系
	C. 動脈系	a 肺循環の動脈系 b 体循環の動脈系 ①上行大動脈とその枝 ②大動脈弓とその枝 ③胸大動脈とその枝 ④腹大動脈とその枝 ⑤頭頸部の動脈 ⑥上肢の動脈 ⑦骨盤の動脈 ⑧下肢の動脈
	D. 静脈系	a 肺循環の静脈系 b 体循環の静脈系 ①上大静脈に注ぐ枝 ②頭頸部の静脈 ③上肢の静脈 ④門脈系 ⑤下大静脈に注ぐ枝 ⑥骨盤の静脈 ⑦下肢の静脈
	E. 胎児循環	a 経路 b 生後循環への切り替わり
	F. リンパ系	a リンパ系の概要 b 全身のリンパ本幹 c 胸管 d リンパ系の器官 ①リンパ節 ②脾臓 ③胸腺 ④扁桃と集合リンパ小節
5. 呼吸器系	A. 鼻腔・副鼻腔	a 鼻腔 ①鼻道 ②鼻粘膜 b 副鼻腔
	B. 喉頭	a 喉頭の構造 b 声帯
	C. 気管と気管支	a 気管と気管支の構造
	D. 肺	a 肺の構造 b 肺区域 c 肺胞 d 胸膜 e 縦隔
6. 消化器系	A. 消化管の基本構造	a 粘膜 b 筋層 c 漿膜（外膜）
	B. 口腔	a 口蓋 ①硬口蓋と軟口蓋

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		②口蓋扁桃 b 舌 ①舌乳頭 ②舌扁桃 ③舌の筋 ④舌の神経 c 歯 ①歯の構造 ②乳歯と永久歯 d 唾液腺
	C. 咽頭	a 咽頭の区分 b 耳管 c 扁桃
	D. 食道	a 構造 b 位置 c 生理的狭窄
	E. 胃	a 構造と区分 b 粘膜 c 胃間膜 d 血管
	F. 小腸	a 十二指腸 ①構造と区分 ②大十二指腸乳頭 ③血管 b 空腸と回腸 ①構造と区分 ②腸間膜 ③血管 c 小腸の組織構造と機能 ①粘膜 ②筋層 ③集合リンパ小節
	G. 大腸	a 盲腸 ①構造 ②虫垂 ③血管 b 結腸 ①走行 ②間膜 ③外形的特徴 ④血管 c 直腸と肛門 ①区分と構造 ②血管 d 大腸の組織構造と機能 ①粘膜 ②筋層
	H. 肝臓	a 位置と形

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		b 組織構造 ①肝小葉 ②デイトセ腔
	I. 胆嚢	a 位置と形 b 胆路
	J. 脾臓	a 位置と形 b 組織構造 c 脾管
	K. 腹膜	a 腹膜の基本構造 b 小網 c 大網 d 腹膜内臓器と腹膜後臓器
7. 泌尿器系	A. 腎臓	a 位置 b 構造 ①肉眼構造 ②組織構造 c 血管
	B. 尿路	a 尿管 ①構造 ②生理的狭窄 b 膀胱 ①構造 ②括約筋 c 尿道 ①男性の尿道 ②女性の尿道
8. 生殖器系	A. 男性生殖器	a 精巣 ①位置と構造 ②精細管と精子産生 ③精巣下降 b 精路 ①精巣上体 ②精管 ③付属腺 c 外生殖器（外陰部） ①陰茎 ②陰嚢 d 精液
	B. 女性生殖器	a 卵巣 ①位置と構造 ②卵胞 ③黄体・白体 b 卵管 c 子宮 ①位置と構造 ②子宮広間膜 ③子宮壁の構造 d 膣

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		e 外生殖器（外陰部） ①小陰唇と陰核 ②膣前庭
9. 内分泌系	A. 下垂体	a 腺性下垂体 ①前葉 ②中間部 b 神経性下垂体
	B. 松果体	a 位置 b メラトニン
	C. 甲状腺	a 位置と形 b 甲状腺ホルモン（サイロキシン） c カルシトニン
	D. 上皮小体	a 位置と数 b パラソルモン
	E. 副腎	a 副腎皮質 b 副腎髄質
	F. 膵臓	a 膵島（ランゲルハンス島） ①インスリン ②グルカゴン
	G. 性腺	a 精巣 b 卵巣
10. 神経系	A. 神経系の構成	a 灰白質と白質 b 神経興奮伝達の方方向性
	B. 中枢神経系	a 脊髄 ①脊髄の区分 ②脊髄の内部構造 b 延髄 c 橋 d 中脳 e 小脳 f 間脳 ①視床 ②視床下部 g 大脳 ①大脳皮質 ②大脳基底核 ③大脳の白質 h 脳室系 i 髄膜 ①硬膜 ②クモ膜 ③軟膜 j 脳脊髄液 k 脳の血管 l 伝導路 ①反射路 ②下行性伝導路 ③上行性伝導路

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		④視覚伝導路 ⑤平衡および聴覚伝導路 ⑥味覚伝導路 ⑦嗅覚伝導路
	C. 末梢神経系	a 脳神経 b 脊髄神経 <ul style="list-style-type: none"> ①脊髄神経の一般的構造 ②デルマトーム（皮膚分節） ③頸神経 ④腕神経叢 ⑤胸神経 ⑥腰神経 ⑦腰神経叢 ⑧仙骨神経 ⑨仙骨神経叢 c 自律神経系 <ul style="list-style-type: none"> ①交感神経系 ②副交感神経系
11. 感覚器系	A. 視覚器	a 眼球 <ul style="list-style-type: none"> ①線維膜 ②血管膜 ③網膜 ④眼底 ⑤眼房と眼房水 ⑥水晶体と硝子体 b 眼球の付属器 <ul style="list-style-type: none"> ①眼瞼（まぶた） ②涙器 ③外眼筋
	B. 平衡聴覚器	a 外耳 <ul style="list-style-type: none"> ①耳介 ②外耳道 b 中耳 <ul style="list-style-type: none"> ①鼓膜 ②鼓室 ③耳管 c 内耳 <ul style="list-style-type: none"> ①蝸牛 ②前庭 ③半規管 d 音の伝達
	C. 味覚器	a 味蕾
	D. 嗅覚器	a 嗅上皮
	E. 皮膚	a 皮膚の構造 <ul style="list-style-type: none"> ①表皮 ②真皮 ③皮下組織 b 皮膚の神経・血管

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		①神経 ②血管 c 毛 d 爪 e 皮膚腺 ①汗腺 ②脂腺 ③乳腺

人体の構造と機能

Ⅱ 生 理 学

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 生理学の基礎	A. 生理機能の特徴	a 内部環境、ホメオスタシス b 細胞、組織、器官、器官系、個体
	B. 細胞の構造と働き	a 細胞膜 b 細胞質 c 核、DNA、RNA、蛋白質合成
	C. 物質代謝	a 同化と異化 b 解糖系と内呼吸
	D. 体液の組成と働き	a 体液の区分 b pH c 浸透圧 d 体液量
	E. 物質移動	a 拡散 b 浸透（半透膜） c 能動輸送 d 食作用 e ろ過
2. 血 液	A. 血液の組成とその働き	a 赤血球 b 白血球 c 血小板 d 血漿
	B. 止血機構	a 血小板血栓 b 血液凝固 c 線維素溶解（線溶） d 凝固阻止物質
	C. 血液型	a ABO 式血液型 b Rh 式血液型
3. 循 環	A. 心臓の構造と働き	a 心臓の構造 b 心筋の特性 c 刺激伝導系 d 心機能の調節 e 心電図
	B. 血管系の構造と働き	a 体循環と肺循環 b 動脈と静脈、動脈血と静脈血 c 血管の構造と働き d 脈拍 e 血流 f 毛細血管の循環 g 静脈還流
	C. 血圧	a 血圧の測定 b 最高血圧、最低血圧、脈圧 c 血圧に影響する因子
	D. 循環調節	a 循環中枢と反射性調節 b 高位中枢からの影響 c 特殊な部位の循環

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	E. リンパ系	a リンパ b リンパ系の機能
4. 呼 吸	A. 呼吸器系の構造と働き	a 外呼吸（肺呼吸）と内呼吸（組織呼吸） b 気道、肺胞、胸郭の構造と働き
	B. 換気とガス交換	a 肺機能 b ガス交換とガスの運搬
	C. 呼吸運動と呼吸調節	a 吸息 b 呼息 c 胸腔内圧 d 呼吸中枢と反射性調節
5. 消化と吸収	A. 消化器系の構造と働き	a 消化管の構造と働き b 各栄養素の消化と吸収
	B. 消化と吸収	a 口腔内の消化（咀嚼、嚥下） b 胃内の消化及び調節 c 小腸内の消化と吸収及び調節 d 大腸内の消化と吸収及び調節 e 排便の仕組み
	C. 肝臓	a 物質代謝 b 胆汁の生成 c 解毒作用 d 血液凝固に関する働き e 血液の貯蔵
6. 代 謝	A. 栄養素とエネルギー代謝	a 栄養素 b エネルギー必要量と栄養所要量
	B. 三大栄養素	a 糖質 b 脂質 c 蛋白質
	C. ビタミン、無機質、水	a ビタミン b 無機質 c 水
7. 体 温	A. 体温	a 体温の部位差 b 生理的変動
	B. 体熱の産生と放熱	a 熱産生 b 熱放散
	C. 体温調節	a 温度受容器と体温調節中枢 b 体温調節反応
8. 排 泄	A. 腎臓の働き	a 尿生成 b 腎循環 c 糸球体ろ過 d 尿細管の再吸収・分泌 e 尿の組成
	B. 腎臓による体液調節	a 体液の pH 調節 b 細胞外液浸透圧の調節 c 細胞外液量の調節
	C. 蓄尿と排尿	a 蓄尿 b 排尿
9. 内分泌	A. ホルモンの特徴	a 一般的特徴

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		b 化学的性質 c 作用機序 d ホルモン分泌の調節
	B. ホルモンの種類とその働き	a 視床下部のホルモン b 下垂体のホルモン c 甲状腺のホルモン d 副甲状腺のホルモン e 膵臓のホルモン f 副腎皮質のホルモン g 副腎髄質のホルモン h 精巣のホルモン i 卵巣のホルモン j その他のホルモン（消化管、腎臓、松果体、心房）
10. 生殖と成長	A. 男性生殖器	a 精子形成 b 性反射
	B. 女性生殖器	a 卵子形成 b 性周期（卵巣周期、月経周期）
	C. 妊娠と出産	a 受精、着床、妊娠 b 胎児の発育 c 分娩 d 乳汁分泌
	D. 成長と老化	a 身長・体重の経時的変化 b 身体各部位の成長、各器官の成長 c 細胞の寿命 d 生理的老化の特徴 e 身体機能の加齢変化
11. 神 経	A. ニューロンの構造とその働き	a ニューロン b 支持細胞
	B. 神経の興奮伝導	a 静止電位 b 活動電位 c 興奮の伝導
	C. 興奮の伝達	a シナプスの構造と働き b シナプス伝達 c 神経伝達物質 d 受容体
	D. 神経系の分類	a 中枢神経系 b 末梢神経系
	E. 反射	a 反射弓 b 反射の種類と特徴
	F. 脊髄	a ベル・マジャンデューの法則 b 脊髄反射 c 脊髄内の伝導路
	G. 脳幹	a 呼吸中枢 b 循環中枢 c 消化に関する中枢 d 排尿中枢

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		e 姿勢反射中枢 f 対光反射中枢
	H. 小脳	a 運動調節 b 姿勢制御
	I. 視床	a 感覚 b 意識 c 運動
	J. 視床下部	a 自律機能の統合 b 本能行動の中枢 c 情動行動の中枢
	K. 大脳	a 大脳基底核 b 大脳辺縁系 c 新皮質 d 学習・記憶 e 覚醒・睡眠 f 脳波
	L. 脳脊髄液	a 生成と循環 b 働き
	M. 体性神経系	a 脳神経 b 脊髄神経 c 皮膚分節と筋分節
	N. 自律神経系	a 交感神経系 b 副交感神経系 c 自律神経調節の特徴 d 内臓求心性神経 e 神経伝達物質と受容体 f 自律神経系の中枢
	O. 自律神経の関与 する反射	a 内臓－内臓反射 b 体性－内臓反射 c 内臓－体性反射
12. 筋 肉	A. 骨格筋の構造と 働き	a 骨格筋の種類 b 骨格筋の作用 c 筋線維と筋原線維 d 筋の微細構造
	B. 筋収縮の仕組み	a 興奮収縮連関 b 等尺性収縮と等張性収縮、求心性収縮と 遠心性収縮 c 単収縮と強縮 d 筋の疲労
	C. 筋のエネルギー 供給	a 筋収縮のエネルギー代謝 b 筋の熱発生
	D. 心筋と平滑筋	a 心筋 b 平滑筋
13. 身体の運動	A. 骨格筋の神経支 配	a 運動単位 b α 、 γ 運動ニューロン c 神経筋接合部 d 筋紡錘と腱受容器

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	B. 運動の調節	a 脊髄における調節 b 脳幹における調節 c 小脳による調節 d 大脳基底核による調節 e 大脳皮質による調節 f 錐体路系と錐体外路系
	C. 発声と言語	a 発声の仕組み b 言語中枢
14. 感 覚	A. 感覚の一般的性質	a 感覚とその分類 b 感覚の一般的性質
	B. 体性感覚	a 皮膚感覚 b 深部感覚 c 体性感覚の伝導路
	C. 内臓感覚	a 臓器感覚 b 内臓痛覚
	D. 痛覚	a 痛みの分類 b 内因性発痛物質 c 痛みによる反応 d 痛みの抑制系
	E. 味覚と嗅覚	a 味覚の性質 b 味覚の受容器と伝導路 c 嗅覚の性質 d 嗅覚の受容器と伝導路
	F. 平衡感覚	a 平衡感覚の性質 b 前庭器官と伝導路
	G. 聴覚	a 聴覚の性質 b 聴覚の受容器と伝導路
	H. 視覚	a 視覚の性質 b 視覚の受容器と伝導路
15. 生体の防御機構	A. 防御機構に働く組織と因子	a 抗原 b 自己、非自己 c 生体表面のバリア d 白血球の働き e 免疫系に働く液性因子 f リンパ系器官
	B. 免疫反応の分類	a 自然免疫と獲得免疫 b 液性免疫と細胞性免疫
	C. 炎症とアレルギー	a 炎症 b アレルギー
16. ホメオスタシスと生体リズム	A. ホメオスタシス	a フィードバック調節系 b 血圧と血液量の調節 c 体液の電解質調節 d 血糖調節 e 体温調節
	B. 生体リズム	a 概日リズム b 自律神経・内分泌機能の日内リズム c 日内リズムの変更と正常化

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		d その他のリズム

疾病の成り立ち、予防及び回復の促進

I 病 理 学 概 論

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 病理学の基礎	A. 病理学の定義と分類	a 定義 b 分類
	B. 疾病（疾患）の定義と分類	a 健康、疾病および半健康状態 b 先天性疾患（遺伝性、非遺伝性）と後天性疾患 c 局所性疾患と全身性疾患 d 器質的疾患と機能的疾患 e 急性疾患と慢性疾患 f 原発性、続発性、合併症 g 伝染性疾患（感染症） h 小児疾患と老人性疾患（加齢） i 特発性疾患
	C. 病変と症状（症候）	a 種々の病変 b 種々の症状（自覚と他覚、直接と間接）
	D. 疾病の経過	a 潜伏期 b 前駆期 c 侵襲期（進行期） d 極期 e 消退期 f 回復期
	E. 予後及び転帰	a 疾病の予後 b 疾病の転帰
2. 病 因	A. 病因の一般	a 定義 b 分類 c 遺伝と環境 d 主因と副因
	B. 内因	a 一般素因（年齢、性、人種、臓器） b 病的素因 c 遺伝子異常 d 染色体異常（常染色体異常、性染色体異常） e 内分泌異常（下垂体、甲状腺、副腎皮質、副腎髄質、膵島） f 免疫異常、アレルギー g 心因性疾患（神経症、心身症、自律神経失調症）
	C. 外因	a 栄養障害（蓄積症、飢餓、主なビタミン欠乏症、ミネラル、水、酸素の不足） b 物理的因子（機械的、温熱的、電気、気圧、光線、放射線） c 化学的因子（環境汚染物質、公害病、医原病、薬害、タバコ、アルコール、薬物） d 生物学的因子（病原微生物、寄生体、プリオン、日和見感染、菌交代現象）

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	D. 発生発育とその異常	a 奇形の原因（常染色体異常、性染色体の異常、感染症、放射線、化学物質、薬剤） b 奇形成立の時期（臨界期） c 奇形の種類
	E. 多遺伝子疾患	a 定義
	F. 加齢・老化	a 加齢現象と疾病 b 生活習慣病
	G. 小児疾患	a 特徴
3. 細胞傷害と修復	A. 萎縮	a 定義 b 全身性萎縮〔飢餓、老人性、悪液質（癌性）〕 c 局所萎縮（生理的、圧迫性、無為萎縮、貧血性、神経原性、内分泌性）
	B. 変性	a 定義 b 種類とその主臓器と疾患名（蛋白質、グリコーゲン、脂肪、無機質、色素、痛風、黄疸） c 糖尿病と合併症 d 動脈硬化と合併症
	C. 壊死と死	a 壊死の定義 b 壊死の原因（化学物質、ウイルスを含む） c 壊死の種類〔壊疽（乾性壊疽、湿性壊疽）〕 d 転帰 e アポトーシス f 死の定義（脳死、植物状態を含む） g 死体現象
	D. 肥大	a 定義 b 原因的分類（機能亢進性、労働性、代償性、内分泌性、偽肥大）
	E. 増殖・異型増殖	a 定義
	F. 再生	a 定義（完全再生、不完全再生、生理的再生、病的再生） b 再生の法則 c 人体組織の再生力の違いによる分類
	G. 化生	a 定義 b 原因 c 種類（扁平上皮化生、腸上皮化生、骨化生、骨髓化生） d 悪性腫瘍との関係
	H. 異物処理	a 排除 b 器質化 c 被包 d 分画
	I. 創傷治癒	a 第一次治癒、第二次治癒 b 肉芽組織、マトリックス c 細胞－細胞関係（サイトカイン）

大項目	中項目	小項目
		d 細胞－マトリックス関係（遊走） e 創傷治癒の経過 f 創傷治癒の合併症（瘢痕・収縮） g 過剰線維化（硬化症・硬変：肺、肝、腎） h 創傷治癒を妨げる因子
4. 循環障害	A. ヒトの循環系	a 大循環 b 小循環 c 門脈循環 d 血管の二重支配 e リンパ液循環
	B. 充血	a 定義 b 原因 c 全身性と局所性 d 炎症性充血 e 徴候
	C. うっ血	a 定義 b 原因 c 全身性（心不全）と局所性 d 徴候 e 転帰
	D. 虚血	a 定義 b 原因 c 徴候 d 転帰
	E. 出血	a 定義（動脈性、静脈性、毛細血管性） b 原因 c 出血性素質（素因）〔血管側と血液側、代表的疾患〕 d 転帰
	F. 血栓症	a 定義 b 血栓の種類（動脈系、静脈系、DIC） c 血栓形成の条件 d 転帰
	G. 塞栓症	a 定義 b 種類 c 栓子の種類 d 発生機序
	H. 梗塞	a 定義（終末動脈） b 分類・好発臓器 c 症状 d 転帰
	I. 側副循環	a 定義 b 主な側副循環と症状
	J. 浮腫（水腫）	a 定義 b 種類（全身性と局所性、腔水症、水腫と浮腫） c 生成機序（漏出液と滲出液）

大項目	中項目	小項目
		d 原因的分類（うっ血性、心性、腎性、炎症性、リンパ環流障害性） e 徴候 f 転帰 g 脱水症・リンパ流出
	K. 全身循環障害（高血圧、心不全、ショック）	a 高血圧、心不全およびショックの定義 b 高血圧、心不全およびショックの分類 c 高血圧、心不全およびショックの合併症・続発性病変 d ショック臓器と症状 e 多臓器不全
5. 炎症	A. 炎症の一般	a 概念（非特異的生体防衛反応、急性と慢性、時間経過）
	B. 炎症の原因	a 傷害の種類 b 特殊な障害（院内感染、日和見感染、耐性菌、アレルギー）
	C. 炎症の経過	a 炎症の時間的経過と組織像の移り変わり b 転帰 c 慢性化とその因子
	D. 炎症のメカニズムと徴候	a 炎症性病変（急性炎症の五大徴候） b 炎症担当細胞 c 炎症のメディエーター（化学伝達物質） d 細胞接着分子
	E. 炎症の分類	a 病変の特徴による分類とその実例〔非特異性炎、特異性炎（肉芽腫性炎）〕
	F. 炎症の全身症状	a 種類とその原因
6. 免疫異常	A. 免疫の基礎	a 自然免疫と獲得免疫 b 抗原と抗体 c 免疫担当細胞 d 液性免疫（抗体の種類と役割、抗体産生機序） e 細胞性免疫（関係細胞とその役割） f 免疫に関する臓器 g 能動免疫と受動免疫（ワクチンと血清療法）
	B. アレルギー反応（免疫病）	a 定義 b I型アレルギー c II型アレルギー〔抗レセプター抗体反応（V型）を含む〕 d III型アレルギー e IV型アレルギー f 代表的疾患の概略
	C. 免疫寛容と自己免疫	a 概念と発生機序 b 主な自己免疫疾患（膠原病）
	D. 免疫不全	a 概念と発生機序

大 項 目	中 項 目	小 項 目
7. 腫 瘍		b 主な免疫不全〔先天性と後天性（エイズ）〕
	E. 移植	a 定義 b 種類と例（自家移植、同系移植、同種移植、異種移植、骨髄移植の特殊性） c 拒絶反応（移植免疫、HVG、GVH）
	A. 腫瘍の一般	a 定義（良性と悪性等） b 形態学的特徴（腫瘍細胞の形態的特徴、実質と間質の関係） c 連続性発育〔膨張性発育、浸潤性発育（進行度）、間質マトリックスとの関係、腫瘍血管〕 d 転移（リンパ行性、血行性、播種、接触転移） e 増殖・進展・病期（早期癌、進行癌、末期癌、前癌病変、上皮内癌、不顕性癌、TNM 分類）
	B. 発癌理論	a 発癌機序（発癌の多段階説） b 癌遺伝子と癌抑制遺伝子 c 内因（遺伝的素因、ホルモン、免疫） d 外因（化学発癌物質、物理的発癌因子、腫瘍ウイルス、慢性炎症）
	C. 腫瘍の分類	a 良性腫瘍 b 悪性腫瘍 c 上皮性腫瘍 d 非上皮性腫瘍 e 混合腫瘍 f 奇形腫
	D. 癌患者をめぐって	a 癌患者の全身症状（腫瘍免疫を含む） b 腫瘍マーカー c 予後因子（5 年、10 年生存率） d 癌の疫学

疾病の成り立ち、予防及び回復の促進

Ⅱ 臨床医学総論

大項目	中項目	小項目
1. 症候	A. 全身の症候	a 全身倦怠感 b 発熱 c やせ・肥満 d ショック e めまい f 口渇 g 浮腫 h チアノーゼ
	B. 皮膚・外表	a 発疹
	C. 感覚器	a 嗅覚障害 b 味覚障害 c 視力低下 d 視野欠損 e 眼精疲労 f 難聴 g 耳鳴り
	D. 呼吸器、心臓	a 咳・痰 b 胸痛 c 呼吸困難 d 嚔声
	E. 消化器	a 腹痛 b 悪心・嘔吐 c 吐血・下血 d 便秘 e 下痢 f 嚥下困難
	F. 血液、造血器、免疫	a 貧血 b 出血傾向 c 易感染性
	G. 泌尿・生殖器	a 尿量異常（無尿、乏尿、多尿） b 排尿障害（頻尿、排尿痛） c 月経異常 d 性器出血
	H. 心理・精神機能	a 睡眠障害 b 認知機能障害 c うつ状態 d 躁状態 e 幻覚妄想 f 不安障害
	I. 神経、運動器	a 片麻痺 b 失語・失認・失行 c 見当識障害 d 記憶障害 e 感覚障害 f 歩行障害

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		g 失神 h 頭痛 i 頸肩腕痛 j 肩こり k 運動麻痺 l 不随意運動 m 腰下肢痛 n 関節痛（肩関節、膝関節）・関節腫脹
2. 診察法	A. 概要	a 診察の意義 b 一般的心得 c 関連用語の意義 ① 予後 ② 転帰 ③ 自覚症状 ④ 他覚所見 d 診察法の種類 ① 医療面接 ② 視診 ③ 触診 ④ 打診 ⑤ 身体計測 ⑥ 神経系の診察 e 診察の順序 ① 医療面接 ② 身体診察 f 診察の記録
	B. 医療面接	a 意義と方法 b カルテ記載項目 c POS
	C. 視診	a 意義と方法 b 全身の観察 ① 顔貌・顔色 ② 精神状態 ③ 言語 ④ 体格・体型 ⑤ 栄養 ⑥ 姿勢 ⑦ 歩行 ⑧ 皮膚 ⑨ 爪 ⑩ リンパ節 c 局所の観察 ① 頭頸部 ② 顔面部 ③ 眼・鼻・耳 ④ 口腔 ⑤ 胸部 ⑥ 腹部 ⑦ 腰背部

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		⑧四肢
	D. 打診	a 意義と方法 b 種類 ①清音 ②濁音 ③鼓音 c 胸部 d 腹部
	E. 聴診	a 意義と方法 b 種類 ①呼吸音 ②心音・心雑音 ③腸雑音 ④血管雑音
	F. 触診	a 意義と方法 b 肺 c 心臓 d 腹部 e 局所の観察 ①皮膚・皮下組織 ②筋肉 ③骨・関節 ④リンパ節
	G. 身体計測	a 意義と方法 b 全身の観察 ①身長 ②体重 ③胸囲 ④腹囲 ⑤四肢長および周径
	H. バイタルサイン (生命徴候)	a 脈拍 b 呼吸 c 体温 d 血圧
	I. 神経系の検査	a 意義と方法 b 感覚検査 ①表在感覚 ②深部感覚 ③複合感覚 c 反射検査 ①表在反射 ②深部反射 ③病的反射 ④自律神経反射 d 脳神経機能検査 e 精神状態 f 高次脳機能検査 g 不随意運動

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		h 運動麻痺 i 運動失調 j 髄膜刺激症状 k 筋肉の異常 l 起立と歩行
	J. 運動機能検査	a 徒手による整形外科学的検査法 ①頸部・胸部 ②肩・上肢 ③腰・下肢 ④股関節 ⑤膝関節
3. 臨床検査法	A. 検体検査	a 尿検査 ①尿量 ②比重 ③色 ④蛋白 ⑤糖 ⑥アセトン体 ⑦ウロビリニン体 ⑧ビリルビン尿 ⑨沈渣 b 糞便検査 ①潜血反応 ②寄生虫 c 血液検査 ①赤血球 ②ヘマトクリット ③白血球 ④血小板 ⑤血色素 ⑥赤血球沈降速度 d 生化学検査 〔肝機能検査〕 ①総蛋白 ②アルブミン ③AST、ALT ④γ-GT ⑤総ビリルビン 〔膵機能検査〕 ①アミラーゼ ②膵リパーゼ 〔腎機能検査〕 ①BUN ②クレアチニン ③尿酸 〔糖代謝関連検査〕 ①空腹時血糖 ②HbA1c ③ケトン体

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		〔脂質検査〕 ①総コレステロール ②LDL コレステロール ③HDL コレステロール ④中性脂肪 〔炎症〕 ①CRP e 免疫学的検査 ①RF ②抗核抗体 f 感染症検査 ①溶連菌 ②HIV ③肝炎ウイルス（A、B、C、D、E） ④ヘリコバクター・ピロリ ⑤クラミジア ⑥梅毒トレポネーマ ⑦結核・非結核性抗酸菌 g 腫瘍マーカー検査 ①AFP ②CA19-9 ③CA125 ④CEA ⑤PSA ⑥SCC ⑦CA15-3
	B. 生理学的検査	生理機能・画像検査 a 心電図 b 筋電図 c 脳波 d 呼吸機能検査 e 画像診断 ①超音波 ②放射線 ③内視鏡 ④CT ⑤MRI ⑥PET f サーモグラフィ
4. 治療法	A. 概要	a 意義と分類 b 種類 ①原因療法 ②対症療法 ③特殊療法 ④保存療法
	B. 薬物療法	a 概要
	C. 食事療法	a 概要

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	D. リハビリテーション	a 理学療法 b 作業療法 c 言語聴覚療法 d 物理療法
	E. 救命処置	a 一次救命処置（AED、止血法、気道異物除去法、搬送法を含む。） b 二次救命処置
5. 精神療法	A. 患者の心理	a 概要 b 神経症と心身症
	B. カウンセリング	a 概要
	C. 心理療法	a 概要

疾病の成り立ち、予防及び回復の促進

Ⅲ 臨床医学各論

大項目	中項目	小項目
1. 感染症	A. 感染と病態	a 感染経路 b 日和見感染 c 菌交代現象
	B. 細菌感染症	a 黄色ブドウ球菌感染症（MRSA 含む） b レンサ球菌感染症（猩紅熱を含む） c 肺炎球菌感染症 d 細菌性食中毒 ①サルモネラ症 ②腸炎ビブリオ感染症 ③腸管出血性大腸菌感染症 ④細菌性赤痢 ⑤カンピロバクター感染症 ⑥ボツリヌス症 e 緑膿菌感染症 f レジオネラ症
	C. ウイルス感染症	a インフルエンザ b 流行性耳下腺炎 c 麻疹 d 風疹 e ポリオ f コクサッキーウイルス感染症 g アデノウイルス感染症 h 単純疱疹 i 水痘 j 帯状疱疹 k ヒト T 細胞白血病ウイルス（HTLV-1）感染症 l 後天性免疫不全症候群（AIDS） m ウイルス肝炎 n ヒトパピローマウイルス感染症 o ノロウイルス感染症
	D. その他	a 梅毒 b クラミジア感染症 ①性器クラミジア感染症 c マイコプラズマ感染症 d 真菌感染症 ①カンジダ症 ②ニューモシスチス肺炎 e アニサキス症
2. 神経・筋疾患	A. 脳血管疾患と頭部外傷	a 脳出血 b くも膜下出血 c 脳梗塞 ①脳血栓 ②脳塞栓 ③ラクナ梗塞

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		④一過性脳虚血発作（TIA） d 頭部外傷 ①慢性硬膜下血腫
	B. 感染性疾患	a 髄膜炎 ①細菌性髄膜炎 ②ウイルス性髄膜炎 ③真菌性髄膜炎 b 脳炎 c プリオン病
	C. 脳・脊髄腫瘍	a 脳腫瘍 ①神経膠腫 ②髄膜腫 ③下垂体腺腫 ④神経鞘腫 ⑤転移性脳腫瘍 b 脊髄腫瘍
	D. 変性疾患	a パーキンソン病 b パーキンソン症候群（パーキンソニズム） c 脊髄小脳変性症 d 多系統萎縮症
	E. 認知症	a アルツハイマー病 b レビー小体型認知症 c 脳血管性認知症 d 前頭側頭型認知症 e 軽度認知障害（MCI）
	F. 神経筋接合部疾患・筋疾患	a 重症筋無力症 b 進行性筋ジストロフィー ①デュシェンヌ型筋ジストロフィー ②ベッカー型筋ジストロフィー ③筋強直性ジストロフィー c 多発性筋炎
	G. 運動ニューロン疾患	a 筋萎縮性側索硬化症（ALS）
	H. 脱髄性疾患	a 多発性硬化症
	I. 末梢神経疾患	a 多発ニューロパチー（ギラン・バレー症候群を含む） b 末梢性顔面神経麻痺（ベル麻痺、ラムゼイ・ハント症候群） c 眼瞼けいれん、片側顔面けいれん d 絞扼性神経障害 ①手根管症候群 ②肩甲上神経絞扼障害 ③橈骨神経絞扼障害 ④肘部管症候群 ⑤尺骨神経絞扼障害（ギオン管症候群） ⑥外側大腿皮神経絞扼障害 ⑦坐骨神経絞扼障害

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		⑧総腓骨神経絞扼障害
	J. 神経痛	a 三叉神経痛 b 肋間神経痛 c 坐骨神経痛 d 後頭神経痛
	K. 慢性頭痛	a 緊張型頭痛 b 片頭痛 c 群発頭痛
	L. てんかん	a 原因による分類 ①症候性てんかん ②特発性てんかん b 発作型による分類 ①焦点発作（単純部分発作、複雑部分発作） ②全般発作
3. 呼吸器・胸壁疾患	A. 感染性肺疾患	a 上気道炎（かぜ症候群を含む） b 急性気管支炎 c 肺炎 ①市中肺炎 ②院内肺炎 d 肺結核 e 肺非結核性抗酸菌症
	B. 気道閉塞性疾患	a 慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉（肺気腫、慢性気管支炎）
	C. アレルギー性疾患	a 気管支喘息、咳喘息
	D. 全身疾患に伴う肺病変	a 膠原病肺
	E. 間質性肺疾患	a 特発性肺線維症 b 薬剤性肺障害 c 珪肺、アスベスト肺
	F. 腫瘍性疾患	a 肺癌 ①腺癌 ②扁平上皮癌 ③小細胞癌 ④大細胞癌 ⑤転移性肺癌 b 胸膜中皮腫 c 癌性胸膜炎
	G. その他	a 気管支拡張症 b 肺塞栓症 c 肺水腫 d 気胸、血胸 e 過換気症候群 f 睡眠時無呼吸症候群
4. 循環器疾患	A. 不整脈	a 頻脈性不整脈 ①心房細動

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		②心房粗動 ③発作性上室性頻拍 ④心室頻拍 ⑤心室細動 b 期外収縮 ①上室性（心房性）期外収縮 ②心室性期外収縮 c 徐脈性不整脈 ①房室ブロック ②洞不全症候群
	B. 心不全	a 左心不全 b 右心不全
	C. 先天性心疾患	a 心房中隔欠損症 b 心室中隔欠損症 c ファロー四徴症
	D. 心臓弁膜症	a 僧帽弁狭窄症 b 僧帽弁閉鎖不全症 c 大動脈弁狭窄症 d 大動脈弁閉鎖不全症
	E. 心筋・心膜疾患	a 特発性心筋症 ①肥大型心筋症 ②拡張型心筋症 b 心筋炎 c 心膜炎 d 心タンポナーデ
	F. 虚血性心疾患	a 急性冠症候群 ①不安定狭心症 ②急性心筋梗塞 ③心臓突然死 b 慢性冠動脈疾患 ①労作性狭心症 ②冠攣縮性狭心症
	G. 脈管疾患	a 大動脈瘤 b 大動脈解離 c 閉塞性動脈硬化症（ASO） d バージェー病（閉塞性血管血栓炎） e 高安動脈炎（大動脈炎症候群） f 下肢静脈瘤 g 血栓性静脈炎 h 深部静脈血栓症 i リンパ浮腫 j レイノー症候群
	H. 血圧異常	a 本態性高血圧 b 二次性高血圧 ①腎実質性高血圧 ②腎血管性高血圧 ③内分泌性高血圧 c 低血圧症（起立性低血圧含む）

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		d ショック
5. 消化器疾患	A. 口腔疾患	a アフタ性口内炎 b 歯周病
	B. 食道疾患	a 胃食道逆流症 b 食道癌 c 食道静脈瘤 d マロリーワイス症候群
	C. 胃疾患	a 胃炎 ①急性胃粘膜病変 ②慢性胃炎 b 胃・十二指腸潰瘍 c 胃癌 d 胃ポリープ e 胃切除後症候群（ダンピング症候群） f 機能性ディスペプシア（FD） g 胃アニサキス症
	D. 腸疾患	a 感染性腸炎 b 過敏性腸症候群（IBS） c 潰瘍性大腸炎 d クローン病 e 虫垂炎 f 腸閉塞（イレウス） g 大腸癌 h 大腸ポリープ i 大腸憩室 j 便秘症 k 痔核、痔瘻、裂肛 l 鼠径ヘルニア
	E. 肝臓疾患	a 急性肝炎 b 劇症肝炎 c 慢性肝炎 d 肝硬変、門脈圧亢進症 e 原発性肝癌（肝細胞癌、胆管細胞癌） f 転移性肝癌 g 肝血管腫、肝嚢胞 h アルコール性肝障害 i 非アルコール性脂肪性肝疾患 ①非アルコール性脂肪肝 ②非アルコール性脂肪肝炎 j 肝性脳症
	F. 胆道疾患	a 胆石症 b 胆嚢炎 c 胆管炎 d 胆道癌（胆嚢癌、胆管癌、乳頭部癌） e 胆嚢ポリープ
	G. 膵臓疾患	a 急性膵炎 b 慢性膵炎、膵石症 c 膵癌

大項目	中項目	小項目
6. 腎泌尿生殖器疾患	A. 糸球体疾患	a 急性糸球体腎炎 b 慢性糸球体腎炎 (IgA 腎症を含む) c 糖尿病性腎症 d ネフローゼ症候群 (一次性、二次性)
	B. 腎不全	a 急性腎不全、急性腎障害 b 慢性腎不全、慢性腎臓病 (CKD)
	C. 感染症	a 腎盂腎炎 b 膀胱炎 c 尿道炎
	D. 腫瘍性疾患	a 腎細胞癌 b 膀胱癌
	E. 結石症・尿路閉塞疾患	a 腎・尿路結石 b 水腎症
	F. 排尿機能障害	a 過活動膀胱 b 神経因性膀胱
	G. 男性生殖器疾患	a 前立腺肥大症 b 前立腺癌 c 前立腺炎 d 勃起障害 (ED)
	H. 女性生殖器疾患	a 月経異常 b 子宮内膜症 c 子宮筋腫 d 子宮癌 ①子宮頸癌 ②子宮体癌 e 月経前症候群 f 更年期障害
7. 血液・造血器疾患	A. 赤血球疾患	a 鉄欠乏性貧血 b 巨赤芽球性貧血 (悪性貧血) c 溶血性貧血 d 再生不良性貧血
	B. 白血球疾患	a 急性白血病 ①急性骨髄性白血病 ②急性リンパ性白血病 b 慢性白血病 ①慢性骨髄性白血病 ②慢性リンパ性白血病 c 成人 T 細胞白血病 d 多発性骨髄腫
	C. リンパ網内系疾患	a 悪性リンパ腫 ①ホジキンリンパ腫 ②非ホジキンリンパ腫
	D. 出血性素因	a 紫斑病 b 血友病 c 播種性血管内凝固症候群 (DIC)
8. 代謝・栄養疾患	A. 糖代謝異常	a 糖尿病 ①1型糖尿病

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		② 2 型糖尿病 ③ 糖尿病慢性合併症 ④ 糖尿病性昏睡 b 低血糖症
	B. 脂質代謝異常	a 脂質異常症 b 肥満症 ① 原発性肥満（単純性肥満） ② 二次性肥満（症候性肥満）
	C. 尿酸代謝異常	a 高尿酸血症 b 痛風
	D. 金属代謝異常	a ウィルソン病 b ヘモクロマトーシス c 亜鉛欠乏症
	E. その他	a ビタミン欠乏症 b メタボリックシンドローム
9. 内分泌疾患	A. 下垂体疾患	a 下垂体腺腫 ① 高プロラクチン血症 ② 先端巨大症、下垂体性巨人症 ③ クッシング病 ④ 非機能性下垂体腺腫（シモンズ病） b 成長ホルモン分泌不全性低身長症 c シーハン症候群 d 尿崩症
	B. 甲状腺・副甲状腺疾患	a 甲状腺機能亢進症（バセドウ病を含む） b 甲状腺機能低下症（粘液水腫・クレチン症） c 橋本病（慢性甲状腺炎） d 甲状腺癌 e 副甲状腺機能亢進症 f 副甲状腺機能低下症
	C. 副腎疾患	a クッシング症候群 b アジソン病 c 原発性アルドステロン症 d 褐色細胞腫
	D. 膵内分泌疾患	a インスリノーマ b グルカゴノーマ c ガストリノーマ
10. アレルギー・自己免疫疾患	A. アレルギー性疾患	a アナフィラキシーショック b 薬物アレルギー c 食物アレルギー d アレルギー性結膜炎 e アレルギー性鼻炎、花粉症 f じんま疹 g アトピー性皮膚炎 h 気管支喘息
	B. 膠原病と類縁疾患	a 全身性エリテマトーデス（SLE） b 全身性硬化症（強皮症） c 関節リウマチ（RA）

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		d ベーチェット病 e シェーグレン症候群 f 多発性筋炎、皮膚筋炎 g 線維筋痛症 h 慢性疲労症候群
	C. 免疫不全症	a 先天性免疫不全 b 後天性免疫不全 ①後天性免疫不全症候群（AIDS） ②医原性免疫不全症
11. 運動器疾患	A. 関節疾患	a 関節炎 b 肩関節周囲炎 c 変形性関節症 d 関節リウマチ e 痛風、偽痛風 f ペルテス病
	B. 骨代謝性疾患	a 骨粗鬆症 b くる病、骨軟化症
	C. 骨腫瘍	a 骨肉腫 b 転移性骨腫瘍
	D. 筋・腱疾患	a 腱鞘炎 b 筋炎・筋膜炎 c 腱板損傷
	E. 形態異常	a 発育性股関節形成不全 b 斜頸 c 側弯症、後弯症 d 外反母趾 e 内反足
	F. 脊椎疾患	a 椎間板ヘルニア b 後縦靱帯骨化症、黄色靱帯骨化症 c 脊椎分離すべり症 d 変性すべり症 e 変形性脊椎症 f 脊柱管狭窄症 g 腰痛症 h 頸椎捻挫、外傷性頸部症候群（むちうち損傷） i 脊髄症
	G. 脊髄損傷	a 脊髄損傷
	H. 外傷	a 骨折 ①脊椎圧迫骨折 ②大腿骨頸部骨折 ③橈骨遠位端骨折 ④上腕骨顆上骨折 b 脱臼 c 捻挫 d スポーツ外傷・障害
	I. その他	a 胸郭出口症候群（TOS） b 頸腕症候群

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		c ガングリオン d ロコモティブ症候群
12. 皮膚・頭頸部・乳房疾患	A. 皮膚疾患	a 接触性皮膚炎 b アトピー性皮膚炎 c 熱傷 d 凍傷 e 膿瘍 f 蜂窩織炎 g 円形脱毛症
	B. 眼疾患	a 結膜炎 b 角膜炎 c ぶどう膜炎 d ドライアイ e 白内障 f 緑内障 g 飛蚊症 h 加齢黄斑変性症 i 糖尿病性網膜症 j 網膜剥離 k 眼精疲労
	C. 耳鼻咽喉疾患	a メニエール病 b 中耳炎 c アレルギー性鼻炎 d 突発性難聴 e 良性発作性頭位めまい症 f 前庭神経炎 g 耳管機能不全（耳管狭窄症、耳管開放症） h 扁桃周囲炎 i 声帯ポリープ j 咽頭癌 k 喉頭癌
	D. 乳腺・乳房疾患	a 乳腺炎 b 乳腺症 c 乳癌
13. 精神・心身医学的疾患	A. 統合失調・気分障害	a 統合失調症 b うつ病性障害 c 双極性障害 ① うつ状態 ② 躁状態
	B. 不安障害	a パニック障害 b 全般性不安障害 c 社会不安障害
	C. 摂食障害	a 摂食障害 ① 神経性食欲不振症（拒食症） ② 神経性過食症（大食症）
	D. 神経症と心身症	a 心身症 b 神経症
	E. その他	a 睡眠障害

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		①不眠症 ②むずむず脚症候群 b せん妄 c アルコール依存症 d 広汎性発達障害 ①自閉症 ②アスペルガー症候群 e 注意欠陥多動障害（ADHD） f 心的外傷後ストレス障害（PTSD）
14. 小児疾患	A. 小児疾患	a 夜驚症 b 夜尿症 c 小児アレルギー性疾患 ①アトピー性皮膚炎 ②気管支喘息 ③アレルギー性鼻炎、結膜炎 d 脳性麻痺 e 肘内障

疾病の成り立ち、予防及び回復の促進

Ⅳ リハビリテーション医学

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. リハビリテーションの概要	A. リハビリテーションの理念	a リハビリテーションの定義 b バリアフリー c 地域共生社会
	B. リハビリテーション医学	a リハビリテーション医学の対象 b リハビリテーション医学の目的 c 身体障害者の動向
	C. 障害の概念	a ICF
	D. リハビリテーションの分野	a 医学的リハビリテーション b 教育的リハビリテーション c 職業的リハビリテーション d 社会的リハビリテーション
	E. 地域リハビリテーション	a 地域リハビリテーションの定義 b 地域包括ケア c 地域ケアを構成するサービス
2. 医学的リハビリテーションの概要	A. 各時期におけるリハビリテーション医療	a 急性期リハビリテーション b 回復期リハビリテーション c 生活期リハビリテーション
	B. リハビリテーション医療とチームアプローチ	a チームアプローチの必要性 b チームの構成メンバー
	C. リハビリテーション医療の進め方	a 評価とゴールの設定 b リハビリテーション治療と退院準備 c 社会復帰
3. 障害の評価	A. 心身機能・身体構造の評価	a 関節可動域 b 筋力 c 運動麻痺と筋緊張 d 運動発達 e 協調運動 f 認知症 g 高次脳機能と失語症 h 心理機能 i 摂食嚥下機能
	B. 活動の評価	a 日常生活動作（ADL）の評価 b 基本的動作と歩行の評価
	C. 参加の評価	a 家族 b 住環境 c 地域環境と職場環境
	D. 合併症の評価	a 廃用症候群 b サルコペニア
4. リハビリテーション治療	A. 理学療法	a 理学療法の定義 b 運動療法 c 物理療法 d 治療体操

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	B. 作業療法	a 作業療法の定義 b 作業療法の種類 c 日常生活動作（ADL）訓練
	C. 言語聴覚療法	a 言語聴覚療法の定義 b 失語症と構音障害に対する治療 c 摂食嚥下障害に対する治療
	D. 義肢装具・車椅子・歩行補助具	a 義肢 b 装具 c 車椅子 d 杖と歩行器 e 自助具
	E. リハビリテーション看護	a リハビリテーション看護の意義 b リハビリテーション看護の方法 c 社会復帰への援助
5. 運動学	A. 総論	a 関節の構造と運動 b 運動神経系 c 感覚神経系
	B. 姿勢と運動のコントロール	a 重心と重心線 b 異常姿勢 c 脊髄反射 d 姿勢反射
	C. 身体各部の機能	a 脊柱と体幹の機能 b 肩甲帯と肩関節の機能 c 肘関節と前腕の機能 d 手関節と手指の機能 e 骨盤と股関節の機能 f 膝関節の機能 g 足関節と足の機能
	D. 歩行	a 歩行周期 b 歩行分析 c 異常歩行
6. 脳卒中のリハビリテーション	A. 脳卒中による障害	a 脳卒中の分類 b 運動障害 c 感覚障害 d 言語障害 e 高次脳機能障害 f 摂食嚥下障害 g 痙縮
	B. 急性期リハビリテーション	a 理学療法 b 作業療法 c 言語聴覚療法 d リスク管理
	C. 回復期リハビリテーション	a 理学療法 b 作業療法 c 言語聴覚療法 d 在宅復帰に対する準備

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	D. 生活期リハビリテーション	a 介護保険制度の活用 b 在宅でのリハビリテーション c 社会復帰
7. 脊髄損傷のリハビリテーション	A. 脊髄損傷による障害	a 受傷原因 b 四肢麻痺と対麻痺 c 感覚障害 d 呼吸機能障害 e 排尿・排便障害 f 損傷後に生じる合併症 g 損傷レベルと運動機能 h 損傷レベルと日常生活動作（ADL）
	B. 急性期リハビリテーション	a 関節拘縮予防 b 褥瘡予防 c 呼吸理学療法 d 日常生活動作（ADL）訓練
	C. 回復期リハビリテーション	a 理学療法 b 作業療法 c 合併症管理 d 在宅復帰に対する準備 e 社会復帰支援
8. 切断のリハビリテーション	A. 切断の評価	a 切断の原因 b 切断の分類と特徴 c 切断後の合併症
	B. 義肢作製とリハビリテーション	a 切断から義肢装着までの流れ b 義足作製とリハビリテーション c 義手作製とリハビリテーション
9. 小児のリハビリテーション	A. 脳性麻痺	a 定義 b 分類と症状 c 随伴症状 d 二次的障害 e リハビリテーションとケア f 整形外科的治療
	B. その他の小児疾患	a 進行性筋ジストロフィー b 二分脊椎
10. 呼吸器・循環器疾患のリハビリテーション	A. 慢性閉塞性肺疾患	a 症状 b 評価 c 呼吸理学療法 d 呼吸筋のトレーニング e リスク管理
	B. 拘束性肺疾患	a 神経筋疾患 b 高位脊髄損傷 c 胸部手術後
	C. 心疾患	a 評価 b リハビリテーションとケア c リスク管理

大 項 目	中 項 目	小 項 目
11. 運動器疾患のリハビリテーション	A. 肩関節周囲炎	a 評価 b リハビリテーション c 生活指導
	B. 腰痛症	a 評価 b リハビリテーション c 生活指導
	C. 変形性関節症	a 変形性膝関節症の特徴と評価 b 変形性股関節症の特徴と評価 c リハビリテーション d 生活指導
	D. 大腿骨頸部骨折	a 症状 b 評価 c リハビリテーション d 生活指導
	E. 関節リウマチ	a 症状 b 評価 c リハビリテーション d 生活指導
12. 神経疾患のリハビリテーション	A. パーキンソン病	a 症状 b 評価 c リハビリテーション d 生活指導
	B. 末梢神経障害	a 病態と原因 b 評価 c 各末梢神経麻痺の特徴 d リハビリテーション
	C. その他の神経疾患	a 脊髄小脳変性症 b 筋萎縮性側索硬化症

疾病の成り立ち、予防及び回復の促進

V 衛生学・公衆衛生学

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 衛生・公衆衛生学の概念	A. 衛生・公衆衛生学の基本	a 衛生学および公衆衛生学の定義 b 地域保健 c 職域保健 d 学校保健
2. 健康の保持増進と疾病予防	A. 健康の定義	a WHO の健康の定義
	B. 健康増進	a 健康管理 b 健康診断・健康診査 c 検診 d 健康教育 e ヘルスプロモーション f 健康日本 21
	C. 疾病予防	a リスク要因 b 一次予防、二次予防、三次予防 c 生活習慣
3. ライフスタイルと健康	A. 食と健康	a 健康と食生活 ① 栄養と栄養素 ② 食習慣 ③ 食生活指針 b 食事摂取基準 c 国民栄養の現状 d 食中毒
	B. 身体活動と健康	a 身体活動の意義 b 身体活動の増進
	C. その他の生活習慣と健康	a 喫煙と健康 b 飲酒と健康 c 口腔保健と全身の健康
4. 環境と健康	A. 日常生活環境	a 空気 ① 性状 ② 化学・生物学的要因 ③ 物理学的要因 ④ 測定方法 ⑤ 健康への影響 b 上水道 ① 水質基準 ② 浄水法と消毒 c 下水道 ① 汚水処理法 ② 水質汚濁 d 衣服と住居 ① 住居と健康 ② 衣服と健康 e 廃棄物処理 ① 一般廃棄物 ② 産業廃棄物 ③ 医療廃棄物（感染性廃棄物）

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	B. 物理的環境	a 温熱 b 騒音 c 振動 d 放射線
	C. 化学的環境	a 有害性評価 b 曝露評価 c 侵入経路 d 量－反応関係 e 毒性試験 f 化学発がん物質
	D. 生物的環境	a 病原動物 b 病原植物 c 病原微生物
	E. 環境と適応	a 環境と適応 ①主体環境系 ②生態系 ③生物濃縮 b 地球規模の環境問題 ①地球温暖化 ②砂漠化 ③オゾン層の破壊 ④酸性雨 c 公害（主なエピソードと原因） d 環境評価 e 環境基準 f 環境保全対策
5. 産業保健	A. 産業保健	a 産業衛生管理 ①作業環境管理 ②作業管理 ③健康管理 b 労働災害 c 健康診断 d 作業関連疾患（職業病） e 職場のメンタルヘルス
6. 精神保健	A. 精神保健	a 精神の健康障害対策と健康増進 ①適応障害 ②ストレス ③アルコール ④薬物依存 ⑤非行と犯罪 b 精神障害 ①精神保健福祉活動 ②社会復帰 ③偏見
7. 母子保健	A. 母子保健	a リプロダクティブヘルス b 母子保健水準の指標 c 少子化 d 児童虐待

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		e 先天異常 f 健やか親子 21
8. 学校保健	A. 学校保健	a 学齢期の健康状態 b 保健教育 c 保健管理 d 学校において予防すべき感染症
9. 成人・高齢者保健	A. 成人・高齢者の保健	a 加齢と老化 b 生活習慣 c 生活の質（QOL） d 日常生活動作（ADL） e 認知症 f 在宅ケア
	B. 生活習慣病対策	a 生活習慣病の現状と動向 b メタボリックシンドローム c 行政の対策
10. 感染症	A. 感染症と発生要因	a 感染源・感染経路・感受性体 b 免疫 c 易感染性宿主 d 無症候性キャリア e 日和見感染 f 医療関連感染（院内感染） g 新興・再興感染症
	B. 感染症の予防と対策	a 感染源対策・感染経路対策・感受性体対策 b 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法） ① 感染症の種類 ② 感染症発生動向調査 c 予防接種法 d 検疫法
11. 消毒法	A. 消毒法一般	a 消毒と滅菌の意義 b 消毒実施上の注意 c 医療廃棄物（感染性廃棄物）
	B. 消毒の種類と方法	a 物理的方法 ① 物理的方法の種類 ② 実施法と注意 b 化学的方法 ① 消毒薬の種類 ② 消毒薬の作用 ③ 消毒薬の使用法
	C. 消毒の応用	a 消毒の意義と対象 b 消毒物件と消毒法の選択 ① 施術者 ② 施術部位 ③ 施術器具 ④ 施術室 c 医療関連感染（院内感染）の予防

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		①標準予防策（スタンダードプリコーション） ②感染経路別予防策
12. 疫 学	A. 疫学の意義と方法	a 流行 b リスク ①有病割合（有病率） ②罹患率 c 疫学研究法 ①観察研究 ②介入研究
13. 保健統計	A. 保健統計一般	a 保健統計の種類と意義
	B. 主な保健統計	a 人口 ①人口静態統計 ②人口動態統計 b 生命表 ①平均寿命 ②平均余命 c 健康づくり ①国民健康・栄養調査 ②国民生活基礎調査 d 疾患の統計 ①有病率 ②罹患率 ③致命率 ④受療率 ⑤有訴者率
14. 国際保健	A. 国際保健活動	a WHO の役割 b 保健医療分野の国際協力

保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念

I 関係法規

大項目	中項目	小項目
1. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律（あはき法）における免許	A. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師免許の資格要件	a 免許 b 業 c 積極的要件、消極的要件
	B. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師免許に関する事務など	a 免許の申請 b 免許証と変更 c 施術者の把握 d 免許の効力
	C. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の身分の消滅と復活	a 免許取消し b 再免許
2. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律（あはき法）における業務	A. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の業務の独占と業務の範囲	a 業務独占 b 業務範囲
	B. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の施術に関する注意	a 業務上の禁忌
	C. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の施術所などに関する規制	a 施術所の意義 b 施術所の届け出 c 施術所の備えるべき要件 d 施術所に対する都道府県知事の監督 e 業務開始の届け出など f 施術所の名称の制限 g 広告の制限 h 秘密保持義務（守秘義務） i 法人の代表者等に関する罰則
	D. あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう業務の停止	
3. 罰則	A. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に関する罰則	a 施術者等に関する罰則

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	B. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の施術所に関する罰則	a 施術所に関する罰則 b 両罰規定
4. 関係法規	A. 医療関係法規	a 医療法 b 医師法 c 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 d 健康増進法 e 地域保健法 f 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 g 高齢者の医療の確保に関する法律 h 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（医薬品、医療機器等法）（旧薬事法） i 麻薬及び向精神薬取締法 j 予防接種法
	B. 社会福祉（保険）関係の法律	a 老人福祉法 b 児童福祉法 c 障害者の日常及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法） d 身体障害者福祉法 e 知的障害者福祉法 f 介護保険法 g 生活保護法 h 個人情報の保護に関する法律（個人情報保護法）

保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念

Ⅱ 医 療 概 論

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 現代の医療と社会	A. 医療と社会	a 疾病構造 b 医療法と医療制度 c リハビリテーション
	B. 医療従事者	a 医療従事者の現状 b チーム医療と専門職連携
	C. 医療・福祉施設	a 病院 b 診療所 c 介護老人保健施設 d 介護老人福祉施設 e 保健・医療・福祉施設の連携
	D. 医療経済	a 国民医療費 b 医療負担と給付
2. 社会保障制度	A. 医療保険のしくみ	a 医療保険の種類と対象 b 療養費制度
	B. 公費負担医療	a 公費医療費の種類と対象
	C. 介護サービス行政	a 介護サービスの概要 b 介護保険制度
3. 医療倫理	A. 医療の倫理	a 医療の倫理の意義 b バイオエシックス c 医学研究に関する倫理指針 d 医学研究に関する利益相反
	B. 医療倫理教育 (医療者と患者および社会の倫理)	a 患者の権利 b 生命の質 (QOL) c ノーマライゼーション d ターミナルケア e 脳死 f 臓器移植 g 尊厳死と安楽死 h 生命倫理に関する諸宣言
	C. 施術者としての倫理	a 職業倫理とは b 守秘義務 c 個人情報保護制度 d インフォームド・コンセントとインフォームド・アセント e 患者の自己決定権 f パターナリズム (父権主義) g コンプライアンスとアドヒアランス

保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念

あん摩マッサージ指圧師

医療概論

專

門

分

野

專 門 分 野

基礎あん摩マッサージ指圧学

I 東洋医学概論・経絡経穴概論

大項目	中項目	小項目
1. 東洋医学の基礎	A. 東洋医学の意義	a 天人合一思想 b 心身一如 c 治未病 d 養生の概要
	B. 陰陽論、五行論	a 陰陽の分類配当 b 五行 c 相生と相剋（相克） d 五行の色体表
2. 気血水（津液）の概要	A. 気	a 生成、生理作用、病理変化（気虚、気滞）
	B. 血	a 生成、生理作用、病理変化（血虚、血瘀）
	C. 水（津液）	a 生成、生理作用、病理変化（津液不足、水液停滞）
3. 蔵象論	A. 肝の生理	a 疏泄を主る b 血を蔵す c 怒・涙・筋・爪を主る d 目に開竅する e 第9胸椎に付着する
	B. 心の生理	a 血脈を主る b 神を蔵す c 喜・汗を主る d 舌に開竅する e 第5胸椎に付着する
	C. 脾の生理	a 運化を主る b 昇清を主る c 統血を主る d 思・涎・肌肉・四肢を主る e 口に開竅する f 第11胸椎に付着する
	D. 肺の生理	a 気を主り、呼吸を調節する b 宣発（宣散）・肅降を主る c 水道を通調する d 治節を主る e 憂・涕・皮毛を主る f 鼻に開竅する g 第3胸椎に付着する
	E. 腎の生理	a 精を蔵し、発育・生殖を主る b 水を主る c 納気を主る d 恐・唾・髪・骨を主る e 髓を生じ、脳を充す f 腰は腎の府である g 耳・二陰に開竅する h 第2腰椎に付着する
	F. 胆の生理	a 胆汁の貯蔵・排泄を主る

大項目	中項目	小項目
		b 決断を主る c 奇恒の腑の一つである d 第10胸椎に付着する
	G. 小腸の生理	a 清濁の分別を主る b 第1仙椎に付着する
	H. 胃の生理	a 水穀の受納・腐熟を主る b 第12胸椎に付着する
	I. 大腸の生理	a 糟粕の伝化を主る b 第4腰椎に付着する
	J. 膀胱の生理	a 貯尿・排尿を主る b 第2仙椎に付着する
	K. 三焦の生理	a 諸気を主宰し、全身の気機を主る b 「名のみありて、形なし」とされている
4. 病因論	A. 三因論	a 外因：六淫（風・熱・湿・燥・寒・暑）、疫癘 b 内因：七情（怒・喜・思・憂・恐・悲・驚） c 不内外因：飲食の不摂生・労倦・安逸・房事の不摂生・外傷
	B. 三毒説	a 血毒・水毒・食毒
5. 病証論	A. 八綱病証	a 八綱病証の概要
	B. 気血水（津液）病証	a 気血水（津液）病証の概要
	C. 臓腑病証	a 臓腑病証の概要
	D. 経脈病証	a 経脈病証の概要
6. 東洋医学的診察法と証の立て方	A. 望診	a 五色 b 身体各部の望診（体型、顔面） c 舌診（舌質、舌苔）
	B. 聞診	a 五声 b 五音 c 五香
	C. 問診	a 寒熱 b 汗 c 痛み d 耳目 e 睡眠 f 飲食と味覚 g 二便
	D. 切診	a 脈診 b 腹診 c 切経
	E. 八綱による四診情報の分析と病証判断の進め方	a 四診情報と八綱 b 内傷病と外感病の鑑別
	F. 証の立て方	a 気血水（津液）病証 b 臓腑病証

大項目	中項目	小項目
7. 治療法	A. 東洋医学の治療法	a 按摩・鍼・灸・湯液（和漢薬）の概要
8. 経絡の概要	A. 正経十二経脈	a 正経十二経脈の名称 b 正経十二経脈の接続 c 正経十二経脈の分布概要 d 正経十二経脈の走行方向 e 流注の概要
	B. 奇経八脈	a 奇経八脈の名称
9. 経穴の意義と概要	A. 経穴の概要	a 腧穴 b 経穴
	B. 取穴法	a 骨度法 b 同身寸法
	C. 要穴	a 原穴 b 郄穴 c 絡穴 d 募穴 e 腧穴（背部腧穴）
10. 所属経穴を持つ経脈	A. 督脈	a 主要な所属経穴名と部位 （腰陽関・命門・至陽・神道・身柱・大椎・百会・上星）
	B. 任脈	a 主要な所属経穴名と部位 （中極・関元・石門・氣海・神闕・中脘・巨闕・膻中）
	C. 手の太陰肺経	a 主要な所属経穴名と部位 （中府・尺沢・孔最・列欠・太淵）
	D. 手の陽明大腸経	a 主要な所属経穴名と部位 （合谷・偏歴・温溜・手三里・曲池・臂臑・肩髃・巨骨・扶突・迎香）
	E. 足の陽明胃経	a 主要な所属経穴名と部位 （四白・地倉・大迎・頬車・下関・頭維・人迎・欠盆・乳根・不容・梁門・天枢・大巨・伏兎・梁丘・犢鼻・足三里・豊隆・衝陽・内庭）
	F. 足の太陰脾経	a 主要な所属経穴名と部位 （太白・公孫・三陰交・地機・陰陵泉・血海・腹結・大横）
	G. 手の少陰心経	a 主要な所属経穴名と部位 （少海・通里・陰郄・神門）
	H. 手の太陽小腸経	a 主要な所属経穴名と部位 （少沢・腕骨・養老・支正・小海・肩貞・臑髎・天宗・秉風・肩外髎・肩中髎・顴髎・聽宮）

大項目	中項目	小項目
	I. 足の太陽膀胱経	a 主要な所属経穴名と部位 (晴明・攢竹・天柱・風門・肺俞・厥陰俞・心俞・膈俞・肝俞・胆俞・脾俞・胃俞・三焦俞・腎俞・大腸俞・小腸俞・膀胱俞・次髎・中髎・承扶・殷門・委中・膏肓・志室・胞肓・秩辺・承筋・承山・飛揚・金門・京骨・至陰)
	J. 足の少陰腎経	a 主要な所属経穴名と部位 (湧泉・太溪・大鍾・水泉・照海・築賓・陰谷・肓俞・俞府)
	K. 手の厥陰心包経	a 主要な所属経穴名と部位 (曲沢・郄門・内関・大陵・労宮)
	L. 手の少陽三焦経	a 主要な所属経穴名と部位 (陽池・外関・会宗・三陽絡・消灤・臑会・肩髃・天髎・翳風)
	M. 足の少陽胆経	a 主要な所属経穴名と部位 (瞳子髎・聴会・懸釐・完骨・陽白・風池・肩井・日月・京門・帶脈・環跳・風市・膝陽関・陽陵泉・外丘・光明・丘墟)
	N. 足の厥陰肝経	a 主要な所属経穴名と部位 (行間・太衝・中封・蠡溝・中都・膝関・曲泉・章門・期門)
11. 経絡・経穴の現代医学的研究	A. 経絡の研究	a 循経感伝現象 b 皮膚電気抵抗低下現象
	B. 経穴の研究	a 良導点 b 皮電点 c 圧痛・硬結 d 皮膚温の変化
	C. 反応点、反応帯	a 圧診点 b 撮診点 c トリガーポイント d ヘッド帯・マッケンジー帯 e 平田十二反応帯

基礎あん摩マッサージ指圧学

Ⅱ あん摩マッサージ指圧理論

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. あん摩	A. 基本手技	a 種類 b 方法 c 生理的作用
	B. 古法按摩	a 概要 b 手技
2. マッサージ	A. 基本手技	a 種類 b 方法 c 生理的作用
	B. 運動法の概要	a 種類 b 方法 c 生理的作用
	C. 結合織マッサージ	a 概要（治療目標、創始者） b 基本手技（擦過輕擦法、カギ型輕擦法）
	D. リンパドレナージ	a 概要
3. 指 圧	A. 基本手技	a 押圧操作 b 押圧の三原則 c 圧法の種類 d 運動操作
4. その他関連する治療法	A. その他の手技療法	a カイロプラクティック（原理、創始者） b オステオパシー（原理、創始者） c スポンディロセラピー（原理、創始者） d 関節モビリゼーション（原理） e 足の反射療法（原理）
5. あん摩・マッサージ・指圧の臨床応用	A. 刺激量	a 刺激量を決定する因子
	B. 感受性	a 個体の感受性を決定する要因
	C. あん摩・マッサージ・指圧の適応と禁忌	a 適応症 b 絶対禁忌症、相対禁忌症
6. リスク管理	A. リスク管理の概要と方法	a 施術上の一般的注意 b 有害事象 c 医療過誤とその予防 d 感染防止対策
7. あん摩・マッサージ・指圧治効の基礎	A. 刺激の受容と伝導	a 皮膚感覚の受容と伝導 b 深部感覚の受容と伝導
	B. 反射	a 体性－運動反射 b 自律神経反射 c 治療効果としての反射
	C. 施術の作用と生体反応	a 手技療法の治療的作用 ①調整作用（興奮作用、鎮静作用） ②誘導作用 ③循環改善作用 ④鎮痛作用 ⑤反射作用

大項目	中項目	小項目
		⑥転調作用 ⑦矯正作用
	D. 身体組織、器官への影響	a 皮膚 b 骨格系 c 内臓系 d 循環系 e 神経系
8. 関連学説	A. ホメオスタシス	a 概要（恒常性、緊急反応、提唱者） b あん摩・マッサージ・指圧との関連
	B. ストレス学説	a 概要（ストレッサー、内分泌系との関連、提唱者） b あん摩・マッサージ・指圧との関連
	C. 圧自律神経反射	a 概要（圧刺激と反応、提唱者） b あん摩・マッサージ・指圧との関連
	D. ゲートコントロール説	a 概要（触刺激と侵害抑制調節、提唱者） b あん摩・マッサージ・指圧との関連

臨床あん摩マッサージ指圧学

I 東洋医学臨床論

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 診断の意義と治療計画	A. 臨床診断の意義と過程	a 現代医学的診断のプロセス b 東洋医学的診断のプロセス
	B. 治療計画	a 推定・鑑別と適否および禁忌の判断 b リスクマネジメント c 治療効果の判定 d 生活指導
2. 診察法と記録法	A. 診察法	a 東洋医学的診察法（四診法の名称と概要） b 現代医学的診察法（基礎的手技の名称と概要）
	B. 記録法	a SOAP 形式
3. 治療の基礎	A. 治療効果の根拠（治療の意義）	a 自然治癒力の賦活 b 生体機能の調節
	B. 治療原則	a 東洋医学理論に基づく治療原則 b 現代医学理論に基づく治療原則
	C. 治療に併用する理学療法	a 運動療法 b 物理療法（電気、光線、温熱、水治、機械）
4. 症候に対するあん摩マッサージ指圧診療	A. 遭遇する頻度が高い症候	各症候は、以下の項目を含む。 ①定義 ②病態生理 ③推定鑑別と主要な原因疾患 ④適否の判断 ⑤主要な病証 ⑥あん摩マッサージ指圧治療（現代医学的、東洋医学的） 【全身症状】 a 疲労と倦怠感 b 冷え 【感覚器の症候】 a 眼精疲労 【消化器の症候】 a 便秘 【心理・精神機能の症候】 a 睡眠障害 【神経・運動器の症候】 a 頭痛 b 運動麻痺 c 肩こり d 頸肩腕痛 e 肩関節痛 f 上肢痛（手の痛み含む） g 腰下肢痛 h 腰痛 i 下肢痛

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		j 膝痛
	B. 遭遇することがある症候	<p>各症候は、以下の項目を含む。</p> <p>①定義 ②病態生理 ③推定鑑別と主要な原因疾患 ④適否の判断 ⑤主要な病証 ⑥あん摩マッサージ指圧治療（現代医学的、東洋医学的）</p> <p>【全身の症候】 a 肥満 b やせ（るい瘦） c のぼせ d 浮腫（むくみ）</p> <p>【皮膚・外表の症候】 a 肌荒れ b 脱毛</p> <p>【感覚器の症候】 a 耳鳴り</p> <p>【消化器の症候】 a 食欲不振</p> <p>【生殖器の症候】 a 不妊 b つわり c ED（勃起障害）</p> <p>【神経・運動器の症候】 a 顔面痛 b 歩行異常</p> <p>【心理・精神機能の症候】 a 気分障害（うつ状態）</p> <p>【その他の症候】 a 歯痛 b 乳汁分泌不全</p>
	C. 知っておく症候	<p>各症候は、以下の項目を含む。</p> <p>①定義 ②病態生理 ③主要な原因疾患</p> <p>【全身の症候】 a 口渇 b めまい</p> <p>【皮膚・外表の症候】 a 発疹</p> <p>【感覚器の症候】 a 難聴</p> <p>【呼吸・循環の症候】 a 咳と痰 b 動悸・息切れ c 呼吸困難 d 胸痛</p>

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		【消化器の症候】 a 悪心・嘔吐 b 下痢 c 腹痛 d 下血 【血液、造血器の症候】 a 貧血 【腎、泌尿器の症候】 a 尿量異常（無尿、乏尿、多尿） b 排尿障害（頻尿、排尿痛） 【生殖器の症候】 a 月経異常 【その他の症候】 a 鼻閉・鼻汁
5. 疾患に対するあん摩マッサージ指圧診療	A. 遭遇する頻度が高い疾患	各疾患は、以下の項目を含む。 ①定義 ②病態生理 ③適否の判断 ④主要な病証 ⑤あん摩マッサージ指圧治療（現代医学的、東洋医学的） 【神経・筋疾患】 a 緊張型頭痛 b 脳血管障害後遺症（片麻痺） 【自己免疫疾患】 a 関節リウマチ（RA） 【循環器疾患】 a 本態性高血圧症 b 本態性低血圧症 【消化器疾患】 a 機能性ディスペプシア b 過敏性腸症候群（IBS） c 弛緩性便秘 d 痙攣性便秘 e 直腸性便秘（排便困難症） 【代謝・内分泌疾患】 a 骨粗鬆症 【運動器疾患】 a 頸椎症 b 頸椎捻挫 c 頸椎椎間板ヘルニア d 胸郭出口症候群（TOS） e 頸肩腕症候群 f 肩関節周囲炎 g 筋筋膜性腰痛 h 椎間関節性腰痛 i 変形性腰椎症 j 腰椎椎間板ヘルニア k 腰部脊柱管狭窄症

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		l 梨状筋症候群 m 変形性膝関節症 n エントラップメント症候群（絞扼神経障害） 【(産) 婦人科疾患】 a 更年期障害 【眼疾患】 a VDT 症候群
	B. 遭遇することがある疾患	各疾患は、以下の項目を含む。 ①定義 ②病態生理 ③適否の判断 ④主要な病証 ⑤あん摩マッサージ指圧治療（現代医学的、東洋医学的） 【神経・筋疾患】 a パーキンソン病 b パーキンソニズム c 顔面神経麻痺 d 橈骨神経麻痺 e 正中神経麻痺 f 尺骨神経麻痺 g 総腓骨神経麻痺 h 脛骨神経麻痺 i 片頭痛 j 後頭神経痛 k 三叉神経痛 l 特発性肋間神経痛 m 帯状疱疹神経痛（帯状疱疹後神経痛含む） 【呼吸器疾患】 a 気管支喘息 【循環器疾患】 a 狭心症 b 閉塞性動脈硬化症（ASO） 【消化器疾患】 a 胃炎 b 胃下垂 c 胃食道逆流症（逆流性食道炎） d 痔疾 【代謝・内分泌疾患】 a 2型糖尿病 b メタボリックシンドローム c 肥満症 d 脂質異常症 【運動器疾患】 a 腱鞘炎 b 手根管症候群 c 脊椎（分離）すべり症

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		d 変形性股関節症 【(産) 婦人科疾患】 a 月経前症候群 b 月経困難症 c 不妊症 【小児疾患】 a 夜驚症 (小児神経症) b 小児喘息 c 小児の夜尿症 【皮膚疾患】 a アトピー性皮膚炎 b 円形脱毛症 c 男性型脱毛症 (AGA) 【耳鼻咽喉科疾患】 a アレルギー性鼻炎 【口腔・歯の疾患】 a 顎関節症 【眼疾患】 a 近視 (仮性近視含む) 【精神疾患】 a うつ病 b 認知症
	C. 知っておく疾患	各疾患は、以下の項目を含む。 ①定義 ②病態生理 ③適否の判断 【神経・筋疾患】 a 群発頭痛 【呼吸器疾患】 a 気管支拡張症 b 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 【循環器疾患】 a バージャー病 【腎・泌尿器疾患】 a 過活動性膀胱 b 成人夜尿症 【自己免疫疾患】 a 全身性硬化症 (強皮症) b 線維筋痛症 【運動器疾患】 a 発育性股関節形成不全 (先天性股関節脱臼) 【皮膚疾患】 a 接触性皮膚炎 b 蕁麻疹 【耳鼻咽喉科疾患】 a メニエール病 【口腔・歯の疾患】 a う歯

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		【その他】 a 貧血（鉄欠乏性貧血）
6. 高齢者に対する あん摩マッ サージ指圧治療	A. 高齢者の特徴	a 身体的特徴 b 心理的特徴 c 高齢者の健康状態
	B. 高齢者疾患に 対するあん摩 マッサージ指 圧治療	a 高齢者疾患の特徴 b 診察上の注意点 c 臨床上の問題点 ①認知症 ②尿失禁 ③褥瘡 ④転倒予防 ⑤失神予防 ⑥歩行障害 d 高齢者の身体的、精神的な評価と指標 e 基本的な介護 f 基本的なリハビリテーション g あん摩マッサージ指圧治療の注意点と特徴
7. スポーツ領域に おけるあん摩 マッサージ指 圧治療	A. スポーツ傷害の 一般	a スポーツ傷害の定義と分類 b スポーツ傷害に対する応急手当（RICE） c 女子アスリートの身体的特徴 d あん摩マッサージ指圧治療との関連
	B. スポーツ傷害に 対する治療方 針	a 筋疲労に対する処置及び対応 b 筋肉痛（遅発性筋痛含む）に対する処置 及び対応 c 筋緊張の緩解 d 筋柔軟性の獲得 e 筋力の増強 f 心身の調整 g スポーツ前後の処置 h あん摩マッサージ指圧治療の適応と不 適応、禁忌
	C. 主なスポーツ傷 害に対するあ ん摩マッサー ジ指圧治療	a ～1疾患は、以下の項目を含む。 ①定義 ②病態生理 ③適否の判断 ④あん摩マッサージ指圧治療（予防およ び応急処置も含めて） a 野球肩 b 野球肘 c テニス肘 d 運動性腰痛 e ジャンパー膝 f オスグッド病 g 腸脛靭帯炎 h 鵞足炎 i シンスプリント

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		j コンパートメント症候群 k アキレス腱炎 l 足底筋膜炎 m～s の疾患は、以下の項目を含む。 ①定義 ②病態生理 ③応急処置と適切な対応 m 打撲 n 捻挫 o 肉離れ p 膝半月板損傷 q 膝靱帯損傷（前十字、後十字、側副） r 脱臼への対応 s 骨折への対応
8. 産業衛生におけるあん摩マッサージ指圧治療	A. 事業所内施術者の業務と役割	a 物理的環境要因と身体的疲労の一般的な対策 b 職場における身体的疲労の一般的な予防策
	B. 主な職業起因性症状のあん摩マッサージ指圧治療	大項目4の症候に対するあん摩マッサージ指圧診療の項に準ずる。 a 頭痛 b 肩こり c 頸肩腕の痛み d 不眠 e うつ状態・焦燥感 f 目の疲れ g 消化器症状（食欲不振、便通異常、悪心など） h 腰痛 i 膝痛 j 足の痛み、疲れ、むくみ k 冷え
9. 健康とあん摩マッサージ指圧治療	A. 健康維持・増進	a 疲労回復 b 睡眠不足 c リラクゼーション
	B. 生活習慣病の予防のための生活指導	a 食事 b 運動

索引

あん摩マッサージ指圧師

邦文索引

ア

亜鉛欠乏症（臨医各）……………37
アキレス腱炎（東洋医学臨床論）…66
悪液質（癌性）……………21
悪性腫瘍……………24
悪性貧血（臨医各）……………36
悪性リンパ腫（臨医各）……………36
足関節と足の機能……………42
足三里……………56
アジソン病（臨医各）……………37
汗……………54
足の痛み（東洋医学臨床論）……………66
足の関節の運動……………7
足の機能……………42
足の筋……………7
足の厥陰肝経……………57
足の少陰腎経……………57
足の少陽胆経……………57
足の太陰脾経……………56
足の太陽膀胱経……………57
足の疲れ（東洋医学臨床論）……………66
足の反射療法……………58
足の骨……………5
足のむくみ（東洋医学臨床論）……………66
足の陽明胃経……………56
アスベスト肺（臨医各）……………33
アスペルガー症候群（臨医各）……………40
アセトン体（臨医総）……………28
圧刺激と反応……………58
圧自律神経反射における圧刺激と反応……………59
圧自律神経反射の概要（アマ指理論）……………59
圧自律神経反射の学説……………59
圧自律神経反射の提唱者（アマ指理論）……………59
圧診点……………57
圧痛（経絡経穴概論）……………57
圧痛・硬結……………57
圧迫性萎縮……………21
圧法の種類……………58
アデノウイルス感染症（臨医各）…31
アドヒアランス……………51
アトピー性皮膚炎（臨医各）……………37, 39, 40
アトピー性皮膚炎（東洋医学臨床論）……………64
アナフィラキシーショック（臨医各）……………37
アニサキス症（臨医各）……………31
あはき法における免許……………49
アフタ性口内炎（臨医各）……………35
アボトシス……………21
アミラーゼ（臨医総）……………28
アルコール依存症（臨医各）……………40

いくつかの用語については、用語の後ろに（ ）をつけ、その用語がどのような分野に属しているかわかりやすくなるよう配慮した。

アルコール性肝障害（臨医各）……………35
アルツハイマー病（臨医各）……………32
 α 運動ニューロン……………17
アルブミン（臨医総）……………28
アレルギー……………18
アレルギー（病理）……………20
アレルギー性疾患（臨医各）……………37
アレルギー疾患の概略……………37
アレルギー性結膜炎（臨医各）……………37
アレルギー性鼻炎（臨医各）……………37, 39, 40
アレルギー性鼻炎（東洋医学臨床論）……………64
アレルギー反応……………23
アレルギー反応の定義……………23
安逸……………55
按摩……………56
按摩の概要……………56
あん摩の種類……………58
あん摩の生理的作用……………58
あん摩の絶対禁忌症……………58
あん摩の相対禁忌症……………58
あん摩の適応症……………58
あん摩の方法……………58
あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう業務の停止……………49
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律における業務……………49
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律における免許……………49
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に関する罰則……………49
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の業務上の禁忌……………49
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の業務独占……………49
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の業務範囲……………49
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の施術所などに関する規制……………50
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の施術所に関する罰則……………50
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の身分の消滅……………49
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の身分の復活……………49
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師免許証の変更……………49
あん摩マッサージ指圧師、はり師、

きゅう師免許に関する事務……………49
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師免許の効力……………49
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師免許の再免許……………49
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師免許の資格要件……………49
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師免許の消極的要件……………49
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師免許の申請……………49
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師免許の積極的要件……………49
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師免許の取消し……………49
あん摩マッサージ指圧治療の注意点（東洋医学臨床論）……………65
安楽死……………51

イ

胃アニサキス症（臨医各）……………35
胃炎（臨医各）……………35
胃炎（東洋医学臨床論）……………63
異化……………14
医学研究に関する利益相反……………51
医学研究に関する倫理指針……………51
医学的リハビリテーション……………41
胃下垂（東洋医学臨床論）……………63
胃癌（臨医各）……………35
易感染性……………25
易感染性宿主……………47
胃間膜……………9
息切れ（東洋医学臨床論）……………31
異型増殖の定義……………21
医源性免疫不全症（臨医各）……………38
医原病……………20
意識……………17
胃疾患（臨医各）……………35
医師法……………50
異種移植……………24
胃・十二指腸潰瘍（臨医各）……………35
萎縮の定義……………21
異常姿勢……………42
異常歩行……………42
胃食道逆流症……………34
胃食道逆流症（東洋医学臨床論）…63
移植の種類……………24
移植の定義……………24
移植免疫……………24
胃切除後症候群（臨医各）……………35
痛み……………55
痛みによる反応……………18
痛みの分類……………18
痛みの抑制系……………18
位置……………9

I型アレルギー	23
1型糖尿病（臨医各）	36
一次救命処置（臨医総）	30
一次性ネフローゼ症候群（臨医各）	36
一次予防	45
委中	57
一過性脳虚血発作（臨医各）	32
一般廃棄物の処理	45
遺伝子	4
遺伝性疾患	20
胃内の消化	15
胃内の調節	15
胃の血管	9
胃の構造と区分	9
胃の生理	55
胃の粘膜	9
衣服	45
衣服と健康	45
異物処理	21
異物処理と分画	21
胃ボリープ（臨医各）	35
医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（医薬品、医療機器等法）（旧薬事法）	50
胃脘	57
医療過誤（あま指理論）	58
医療過誤の予防（あま指理論）	58
医療関係法規	50
医療関連感染	47
医療関連感染の予防	47
医療経済	51
医療施設	51
医療者の倫理	51
医療従事者	51
医療従事者の現状	51
医療制度	51
医療の倫理	51
医療の倫理の意義	51
医療廃棄物	45
医療負担と給付	51
医療法	50
医療保険の種類	51
医療保険の対象	51
医療面接（臨医総）	26
医療面接の意義（臨医総）	26
医療面接の方法（臨医総）	25
医療倫理教育	51
イレウス（臨医各）	35
陰核	11
陰茎	10
陰部	56
陰谷	57
飲酒と健康	45
飲食	55
飲食と味覚	55
飲食の不摂	55
インスリノーマ（臨医各）	37

インスリン	11
咽頭癌（臨医各）	39
咽頭の区分	9
院内感染	23, 47
院内感染の予防	47
院内肺炎（臨医各）	33
陰囊	10
インフォームド・アセント	51
インフォームド・コンセント	51
インフルエンザ（臨医各）	31
殷門	57
陰陽の分類配当	54
陰陽論	54
陰陵泉	56

ウ

ウイルス肝炎（臨医各）	31
ウイルス感染症（臨医各）	31
ウイルス性髄膜炎（臨医各）	32
ウィルソン病（臨医各）	37
う歯（東洋医学臨床論）	64
右心不全（臨医各）	34
うっ血性浮腫	23
うっ血と心不全	22
うっ血の原因	22
うっ血の徴候	22
うっ血の定義	22
うっ血の転帰	22
うつ状態（臨医総）	25
うつ状態（臨医各）	39
うつ状態（東洋医学臨床論）	61
うつ病（東洋医学臨床論）	64
うつ病性障害（臨医各）	39
ウロビリニン体（臨医総）	28
運化を主る	54
運動	17
運動学における運動神経系	42
運動学における感覚神経系	42
運動学における関節の運動	42
運動学における関節の構造	42
運動器疾患（臨医各）	38
運動器疾患のリハビリテーション	44
運動機能検査（臨医総）	28
運動器の形態異常（臨医各）	38
運動失調	28
運動性腰痛（東洋医学臨床論）	65
運動操作（あま指理論）	58
運動単位	17
運動調節	17
運動と脊髄反射	42
運動ニューロン疾患（臨医各）	32
運動のコントロール	42
運動発達の評価	41
運動法の概要	58
運動法の種類（マッサージ）	58
運動法の生理的作用（マッサージ）	58

運動法の方法（マッサージ）	58
運動麻痺（臨医総）	26
運動麻痺（東洋医学臨床論）	60
運動麻痺の検査（臨医総）	28
運動麻痺の評価	41
運動療法	41
運動療法（東洋医学臨床論）	60

エ

永久歯	9
エイズ	24
衛生学および公衆衛生学の定義	45
翳風	57
栄養所要量	15
栄養素	15, 45
栄養素の吸収	15
栄養素の消化	15
栄養と栄養素	45
栄養の観察（臨医総）	26
会陰の筋	6
疫学研究法	48
疫学とリスク	48
疫学の意義	48
疫学の方法	48
液性免疫	18, 23
液性免疫における抗体の種類	23
液性免疫における抗体の役割	23
疫癘	55
壊死とウイルス	21
壊死と化学物質	21
壊死の原因	21
壊死の種類	21
壊死の定義	21
壊死の転帰	21
壊疽	21
会宗	57
エネルギー代謝	17
エネルギー必要量	15
嚥下	15
円形脱毛症（臨医各）	39
円形脱毛症（東洋医学臨床論）	64
嚥下困難（臨医総）	25
炎症	23
炎症と細胞接着分子	23
炎症と非特異的生体防衛反応	23
炎症性充血	22
炎症性病変	23
炎症性浮腫	23
炎症担当細胞	23
炎症の概念	23
炎症の化学伝達物質	23
炎症の原因としてのアレルギー	23
炎症の原因としての院内感染	23
炎症の原因としての傷害の種類	23
炎症の原因としての特殊な障害	23
炎症の原因としての日和見感染	23
炎症の検査（臨医総）	29
炎症の時間経過	23

炎症の時間的経過と組織像の移り変わり	23	介護老人福祉施設	51	下肢の筋	7
炎症の全身症状の原因	23	介護老人保健施設	51	下肢の主要な筋の体表解剖	7
炎症の全身症状の種類	23	外耳	12	下肢の静脈	8
炎症の徴候	23	概日リズム	18	下肢の動脈	8
炎症の転帰	23	外耳道	12	下肢の徒手による整形外科的検査法（臨医総）	28
炎症の分類	23	外傷	55	下肢の骨の体表解剖	5
炎症の慢性化とその因子	23	外傷（臨医各）	38	数	11
炎症のメカニズム	23	外傷性頸部症候群（臨医各）	38	下垂体	11
炎症のメディエーター（化学伝達物質）	23	外生殖器	10	下垂体疾患（臨医各）	37
遠心性収縮	17	外側大腿皮神経絞扼障害（臨医各）	32	下垂体性巨人症（臨医各）	37
延髄	11	回腸	9	下垂体腺腫（臨医各）	37
エントラップメント症候群（東洋医学臨床論）	63	解糖系	14	下垂体のホルモン	16
オ		介入研究	48	ガス交換	15
押圧操作	58	外胚葉	4	ガストリノーマ（臨医各）	37
押圧の三原則	58	灰白質	11	ガスの運搬	15
横隔膜	6	外反母趾（臨医各）	38	化生と悪性腫瘍との関係	21
黄色靱帯骨化症（臨医各）	38	回復期	20	化生の原因	21
黄色ブドウ球菌感染症（臨医各）	31	回復期リハビリテーション	41, 42, 43	化生の種類	21
黄体	10	外膜	8	化生の定義	21
嘔吐・下血（臨医総）	25	潰瘍性大腸炎（臨医各）	35	かぜ症候群（臨医各）	33
悪心・嘔吐（東洋医学臨床論）	62	カイロプラクティック	58	画像診断（臨医総）	29
悪心・嘔吐（臨医総）	25	カイロプラクティックの原理	58	鰻足炎（東洋医学臨床論）	65
オスグッド病（東洋医学臨床論）	65	カイロプラクティックの創始者	58	家族の評価	41
オステオパシー	58	カウンセリングの概要（臨医総）	30	下大静脈に注ぐ枝	8
オステオパシーの原理	58	下顎骨	6	下腿の筋	7
オステオパシーの創始者	58	化学的因子とアルコール	20	下腿の屈筋群	7
オゾン層の破壊	46	化学的因子とタバコ	20	下腿の伸筋群	7
音の伝達	12	化学的因子と薬物	20	下腿の腓骨筋群	7
温度受容器	15	化学的環境と健康	46	下腿の骨	5
温熱的因子	20	化学的方法（化学的消毒法）	47	肩関節	5
温熱と健康	46	化学発がん物質	46	肩関節周囲炎（臨医各）	38
温溜	56	過活動性膀胱（東洋医学臨床論）	64	肩関節周囲炎（東洋医学臨床論）	62
カ		過活動膀胱（臨医各）	36	肩関節周囲炎の生活指導	44
外因	20	過換気症候群（臨医各）	33	肩関節周囲炎の評価	44
外因と栄養障害	20	カギ型軽療法	58	肩関節周囲炎のリハビリテーション	44
外因と化学的因子	20	蝸牛	12	肩関節痛（臨医総）	26
外因と生物学的因子	20	核	4, 14	肩関節痛（東洋医学臨床論）	60
外因と物理的因子	20	顎関節	6	肩関節の運動	7
外陰部	10, 11	顎関節症（東洋医学臨床論）	64	肩こり（臨医総）	26
外関	57	各器官の成長	16	肩こり（東洋医学臨床論）	60
外眼筋	12	拡散	14	肩・上肢の徒手による整形外科的検査法（臨医総）	28
外寛骨筋	7	各時期におけるリハビリテーション	41	形	9, 10, 11
外感病	55	医療	17	片麻痺（臨医総）	25
外感病の鑑別	55	学習・記憶	17	片麻痺（東洋医学臨床論）	62
外丘	57	覚醒・睡眠	17	学校において予防すべき感染症	47
外形的特徴	9	拡張型心筋症（臨医各）	34	学校保健	45
介護（東洋医学臨床論）	65	獲得免疫	18, 23	褐色細胞腫（臨医各）	37
外呼吸	15	角膜炎（臨医各）	39	活動電位	16
介護サービス行政	51	膈愈	57	活動の評価	41
介護サービスの概要	51	学齢期の健康状態	47	合併症の評価	41
介護保険制度	51	下行性伝導路	11	括約筋	10
介護保険法	50	下肢静脈瘤（臨医各）	34	下鼻甲介	6
		下肢帯の筋	7	過敏性腸症候群（臨医各）	35
		下肢帯の骨	5	過敏性腸症候群（東洋医学臨床論）	62
		下肢痛（東洋医学臨床論）	60	花粉症（臨医各）	37
		下肢の運動	7		
		下肢の関節	5		

カルシトニン	11	関節腫脹（臨医総）	26	癌の外因	24
カルテ記載項目（臨医総）	26	間接症状	20	肝の生理	54
加齢	21, 47	関節痛（臨医総）	26	癌の内因	24
加齢黄斑変性症（臨医各）	39	関節の構造と運動	42	カンピロバクター感染症（臨医各）	31
加齢現象	21	関節の種類	4	眼房	12
加齢変化	16	関節モビリゼーション	58	顔貌・顔色の観察（臨医総）	26
寒	55	関節モビリゼーションの原理	58	眼房水	12
癌遺伝子	24	関節リウマチ（臨医各）	38	γ運動ニューロン	17
肝炎ウイルス（A, B, C, D, E）（臨医総）	29	関節リウマチ（東洋医学臨床論）	62	間膜	9
感覚器の症候（臨医総）	25	関節リウマチの症状	44	顔面	55
感覚検査（臨医総）	27	関節リウマチの生活指導	44	顔面神経麻痺（東洋医学臨床論）	63
感覚障害（臨医総）	25	関節リウマチの評価	44	顔面痛（東洋医学臨床論）	61
感覚の分類	18	関節リウマチのリハビリテーション	44	顔面頭蓋	6
癌患者の10年生存率	24	汗腺	13	顔面頭蓋をつくる骨	6
癌患者の5年生存率	24	感染経路（臨医各）	31	顔面部の観察（臨医総）	26
癌患者の全身症状	24	感染経路対策	47	肝臓	57
癌患者の予後因子	24	感染経路別予防策	48	癌抑制遺伝子	24
換気	15	感染源	47	冠攣縮性狭心症（臨医各）	34
肝機能検査（臨医総）	28	感染源対策	47		
眼球	12	完全再生	21	キ	
眼球的付属器	12	感染症	20, 21	気	54
環境汚染物質	20	感染症（臨医各）	31	喜	55
環境基準	46	感染症検査（臨医総）	29	喜・汗を主る	54
環境と適応	46	感染症と免疫	47	記憶	17
環境評価	46	感染症の対策	47	記憶障害（臨医総）	25
環境保全対策	46	感染症の発生要因	47	ギオン管症候群（臨医各）	32
ガングリオン（臨医各）	39	感染症の予防	47	飢餓	21
関係法規	50	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律	47	気海	56
肝血管腫（臨医各）	35	感染症の類型	47	期外収縮（臨医各）	34
関元	56	感染症発生動向調査	47	飢餓萎縮	21
眼瞼	12	感染症法	47	機械的因子	20
眼瞼けいれん（臨医各）	32	感染性腸炎（臨医各）	35	器官	14
肝硬変（臨医各）	35	感染性廃棄物	45, 47	気管	8
寛骨	5	感染性肺疾患（臨医各）	33	器官系	14
完骨	57	感染と病態（臨医各）	31	気管支	8
肝細胞癌（臨医各）	35	感染防止対策（あま指理論）	58	気管支拡張症（臨医各）	33
観察研究	48	肝臓疾患（臨医各）	35	気管支拡張症（東洋医学臨床論）	64
カンジダ症（臨医各）	31	肝臓の位置	9	気管支喘息（臨医各）	33, 37, 40
眼疾患（臨医各）	39	肝臓の形	9	気管支喘息（東洋医学臨床論）	63
間質性肺疾患（臨医各）	33	肝臓の血液凝固に関する働き	15	気管支の構造	8
患者および社会の倫理	51	肝臓の血液の貯蔵	15	気管の構造	8
患者の権利	51	肝臓の解毒作用	15	器官への影響（あま指理論）	59
患者の自己決定権	51	肝臓の組織構造	10	気虚	54
患者の心理の概要（臨医総）	30	肝臓の物質代謝	15	気胸（臨医各）	33
感受性（あま指理論）	58	環跳	57	奇形腫	24
感受性体	47	眼底	12	奇形成立の時期	21
感受性体対策	47	癌と遺伝的素因	24	奇形成立の臨界期	21
肝小葉	10	癌と化学発癌物質	24	奇形と化学物質	21
乾性壊疽	21	癌と物理的発癌因子	24	奇形と感染症	21
癌性胸膜炎（臨医各）	33	癌とホルモン	24	奇形と放射線	21
肝性脳症（臨医各）	35	癌と慢性炎症	24	奇形と薬剤	21
眼精疲労（臨医総）	25	癌と免疫	24	奇形の原因	21
眼精疲労（臨医各）	39	寒熱	55	奇形の種類	21
眼精疲労（東洋医学臨床論）	60	癌の遺伝的素因	24	奇経八脈	56
関節運動	42	間脳	11	奇経八脈の名称	56
関節炎（臨医各）	38	肝嚢胞（臨医各）	35	気血水（津液）の概要	54
関節可動域の評価	41	癌の疫学	24	気血水（津液）病証	55
関節疾患（臨医各）	38				

奇恒の腑……………	55	急性期リハビリテーション……………	41, 43	業務独占……………	49
義肢……………	42	急性骨髄性白血病（臨医各）……………	36	業務範囲……………	49
義肢作製……………	43	急性糸球体腎炎（臨医各）……………	36	極期……………	20
器質化……………	21	急性疾患……………	20	局所萎縮……………	21
器質的疾患……………	20	急性心筋梗塞（臨医各）……………	34	局所性うっ血……………	22
義手作製とリハビリテーション……………	43	急性腎障害（臨医各）……………	36	局所性疾患……………	20
寄生体……………	20	急性腎不全（臨医各）……………	36	局所性充血……………	22
寄生虫（臨医総）……………	28	急性膀胱炎（臨医各）……………	35	局所性浮腫……………	22
義足作製とリハビリテーション……………	43	急性白血病（臨医各）……………	36	曲阜……………	57
気滞……………	54	急性リンパ性白血病（臨医各）……………	36	曲沢……………	57
偽痛風（臨医各）……………	38	吸息……………	15	曲池……………	56
喫煙と健康……………	45	灸の概要……………	56	虚血の定義……………	22
気道……………	15	救命処置（臨医総）……………	30	虚血性心疾患（臨医各）……………	34
気道異物除去法（臨医総）……………	30	恐……………	55	虚血の原因……………	22
気道閉塞性疾患……………	33	驚……………	55	虚血の徴候……………	22
機能亢進性肥大……………	21	橋……………	11	虚血の転帰……………	22
機能性ディスペプシア（臨医各）……………	35	業……………	49	拒食症（臨医各）……………	39
機能性ディスペプシア（東洋医学臨 床論）……………	62	教育的リハビリテーション……………	41	巨赤芽球性貧血（臨医各）……………	36
機能的疾患……………	20	胸囲の計測（臨医総）……………	27	拒絶反応……………	24
気の生成……………	54	胸郭出口症候群（臨医各）……………	38	距腿関節……………	5
気の生理作用……………	54	胸郭出口症候群（東洋医学臨床論） ……………	62	ギラン・バレー症候群（臨医各）……………	32
気の病証……………	55	胸郭の運動……………	5	起立性低血圧（臨医各）……………	34
気の病証の概要……………	55	胸郭の構成……………	5	起立と歩行の検査（臨医総）……………	28
気の病理変化……………	54	胸郭の構造……………	15	記録法（東洋医学臨床論）……………	60
偽肥大……………	21	胸郭の全体像……………	5	気を主り、呼吸を調節する……………	54
気分障害（臨医各）……………	39	胸郭の体表解剖……………	5	筋萎縮性側索硬化症のリハビリテー ション……………	44
気分障害（うつ状態）（東洋医学臨 床論）……………	61	胸郭の働き……………	15	筋萎縮性側索硬化症（臨医各）……………	32
基本手技（あん摩）……………	58	胸管……………	8	筋炎（臨医各）……………	38
基本手技（指圧）……………	58	胸腔内圧……………	15	緊急反応……………	59
基本手技（マッサージ）……………	58	凝固阻止物質……………	14	筋強直性ジストロフィー（臨医各） ……………	32
基本手技の種類（あん摩）……………	58	胸骨……………	5	筋緊張の評価……………	41
基本手技の種類（マッサージ）……………	58	頰骨……………	6	筋筋膜性腰痛（東洋医学臨床論）……………	62
基本手技の生理的作用（あん摩）……………	58	胸鎖関節……………	5	筋・腱疾患（臨医各）……………	38
基本手技の生理的作用（マッサージ） ……………	58	胸鎖乳突筋……………	7	筋原線維……………	17
基本手技の方法（あん摩）……………	58	頰車……………	56	菌交代現象（臨医各）……………	31
基本手技の方法（マッサージ）……………	58	強縮……………	17	近視（東洋医学臨床論）……………	64
基本的動作の評価……………	41	胸神経……………	12	筋疾患（臨医各）……………	31
期門……………	57	狭心症（東洋医学臨床論）……………	63	筋収縮のエネルギー代謝……………	17
逆流性食道炎（東洋医学臨床論）……………	63	矯正作用（あま指理論）……………	59	筋収縮の仕組み……………	17
灸……………	56	胸腺……………	8	筋柔軟性の獲得（東洋医学臨床論） ……………	65
嗅覚……………	18	胸大動脈とその枝……………	8	筋線維……………	17
嗅覚器……………	12	恐・唾・髪・骨を主る……………	54	筋層……………	8, 9
嗅覚受容器……………	18	協調運動……………	41	金属代謝異常（臨医各）……………	37
嗅覚障害（臨医総）……………	25	協調運動の評価……………	41	筋組織……………	4
嗅覚伝導路……………	12	胸椎……………	5	緊張型頭痛（臨医各）……………	33
嗅覚の性質……………	18	胸痛（臨医総）……………	25	緊張型頭痛（東洋医学臨床論）……………	62
丘墟……………	57	胸痛（東洋医学臨床論）……………	61	筋電図（臨医総）……………	29
吸収……………	15	強皮症（臨医各）……………	37	筋肉……………	27
嗅上皮……………	12	強皮症（東洋医学臨床論）……………	64	筋肉の異常の検査（臨医総）……………	28
求心性収縮……………	17	胸部の観察（臨医総）……………	26	筋肉の触診（臨医総）……………	27
急性胃粘膜病変（臨医各）……………	35	胸部の筋……………	6	筋の運動……………	6
急性炎症……………	23	胸部の打診（臨医総）……………	27	筋のエネルギー供給……………	17
急性炎症の五大徴候……………	23	胸部の徒手による整形外科的検査 法（臨医総）……………	28	筋の形……………	6
急性肝炎（臨医各）……………	35	胸膜……………	8	筋の作用……………	6
急性冠症候群（臨医各）……………	34	胸膜中皮腫（臨医各）……………	33	筋の神経……………	6
急性気管支炎（臨医各）……………	33	業務開始の届け出……………	49	筋の熱発生……………	17
		業務上の禁忌……………	49		

筋の微細構造	17
筋の疲労	17
筋の付着	6
筋の補助装置	6
筋分節	17
筋紡錘	17
筋膜炎（臨医各）	38
金門	57
筋力の増強（東洋医学臨床論）	65
筋力の評価	41

ク

空気の化学・生物学的要因	45
空気の健康への影響	45
空気の性状	45
空気の測定方法	45
空気の物理学的要因	45
腔水症	22
空腸	9
空腹時血糖（臨医総）	28
口に開竅する	54
クッシング症候群（臨医各）	37
クッシング病（臨医各）	37
区分	4
クモ膜	11
くも膜下出血（臨医各）	31
クラミジア（臨医総）	29
クラミジア感染症（臨医各）	31
グリコーゲン変性	21
グルカゴノーマ（臨医各）	37
グルカゴン	11
くる病（臨医各）	38
車椅子	42
クレアチニン（臨医総）	28
クレチン症（臨医各）	37
クローン病（臨医各）	35
群発頭痛（臨医各）	33
群発頭痛（東洋医学臨床論）	64

ケ

毛	13
経穴	56
経穴の意義	56
経穴の概要	56
頸肩腕症候群（東洋医学臨床論）	62
頸肩腕痛（臨医総）	26
頸肩腕の痛み（東洋医学臨床論）	66
迎香	56
京骨	57
脛骨・腓骨の連結	5
脛骨神経麻痺（東洋医学臨床論）	63
頸神経	12
頸椎	5
頸椎症（東洋医学臨床論）	62
頸椎椎間板ヘルニア（東洋医学臨床論）	62
頸椎捻挫（臨医各）	38

頸椎捻挫（東洋医学臨床論）	62
軽度認知障害（臨医各）	32
珪肺（臨医各）	33
頸部の筋	7
頸部の主要な筋の体表解剖	7
頸部の徒手による整形外科的検査 法（臨医総）	28
経脈病証	55
経脈病証の概要	55
京門	57
痙攣性便秘（東洋医学臨床論）	62
頸腕症候群（臨医各）	38
ゲートコントロール説とあん摩・マ ッサージ・指圧との関連	59
ゲートコントロール説における触刺 激と侵害抑制調節（あま指理論）	59
ゲートコントロール説の概要（あま 指理論）	59
ゲートコントロール説の提唱者（あ ま指理論）	59
下関	56
郄穴	56
劇症肝炎（臨医各）	35
下血（東洋医学臨床論）	62
下水道の汚水処理法	45
血	54
血圧（臨医総）	27
血圧異常	34
血圧異常（臨医各）	34
血圧に影響する因子	14
血圧の測定	14
血圧の調節	18
厥陰俞	57
血液・造器器疾患（臨医各）	36
血液型	14
血液凝固に関する働き	15
血液検査（臨医総）	28
血液の症候（臨医総）	25
血液の組成	14
血液の貯蔵	15
血液の働き	14
血液量の調節	18
血瘀	54
血海	56
結核・非結核性抗酸菌（臨医総）	29
血管	9
血管系の構造	14
血管系の働き	14
血管雑音（臨医総）	27
血管の構造	7
血管の二重支配	22
血管の働き	14
血管膜	12
血虚	54
血胸（臨医各）	33
月経異常（臨医総）	25
月経異常（臨医各）	36
月経異常（東洋医学臨床論）	62

月経困難症（東洋医学臨床論）	64
月経周期	16
月経前症候群（臨医各）	36
月経前症候群（東洋医学臨床論）	64
結合組織マッサージの概要	58
結合組織マッサージの基本手技	58
結合組織マッサージの創始者	58
結合組織マッサージの治療目標	58
血行性転移	24
結合組織	4
血色素（臨医総）	28
血漿	14
血小板	14
血小板（臨医総）	28
血清療法	23
結石症・尿路閉塞疾患（臨医各）	36
血栓形成の条件	22
血栓症の定義	22
血栓症の転帰	22
血栓性静脈炎（臨医各）	34
血栓の種類	22
決断を主る	55
結腸	9
血糖調節	18
血毒	55
血の生成	54
血の生理作用	54
血の病証	55
血の病証の概要	55
血の病理変化	54
欠盆	56
結膜炎（臨医各）	39
血脈を主る	54
血友病（臨医各）	36
血流	14
血を蔵す	54
解毒作用	15
ケトン体（臨医総）	28
下痢（東洋医学臨床論）	62
下痢（臨医総）	25
原因によるてんかんの分類（臨医各）	33
原因療法（臨医総）	29
検査法	47
肩外俞	56
幻覚妄想（臨医総）	25
肩髃	56
原穴	56
言語	18
健康維持・増進（東洋医学臨床論）	66
健康管理	45
健康教育	45
肩甲骨	5
肩甲上神経絞扼障害（臨医各）	32
健康診断	45
健康診断・健康診査	45
健康増進	45
健康増進法	50

肩甲帯と肩関節の機能……………42	高血圧の合併症・続発性病変……………23	高プロラクチン血症（臨医各）………37
健康づくり……………48	高血圧の定義……………23	興奮作用（アマ指理論）……………58
健康とあん摩マッサージ指圧治療 （東洋医学臨床論）……………66	高血圧の分類……………23	興奮収縮連関……………17
健康と食生活……………45	抗原……………18	興奮伝達……………11
健康日本 21 ……………45	膠原病……………23	興奮伝導……………16
健康の定義……………45	膠原病と類縁疾患（臨医各）………37	硬膜……………11
言語中枢……………18	膠原病肺（臨医各）……………33	光明……………57
言語聴覚療法（臨医総）……………30	膏肓……………57	肛門……………9
言語聴覚療法の定義……………42	硬口蓋……………8	絞扼性神経障害（臨医各）……………32
言語の観察（臨医総）……………26	合谷……………56	絞扼性神経障害（東洋医学臨床論） ……………63
肩鎖関節……………5	広告の制限……………49	盲愈……………57
腱受容器……………17	孔最……………56	高齢者疾患に対するあん摩マッサー ジ指圧治療の注意点と特徴（東 洋医学臨床論）……………65
腱鞘炎（臨医各）……………38	高次脳機能検査（臨医総）……………27	高齢者疾患に対する基本的な介護 （東洋医学臨床論）……………65
腱鞘炎（東洋医学臨床論）……………63	高次脳機能と失語症（リハビリ）…41	高齢者疾患に対する基本的なりハビ リテーション（東洋医学臨床論） ……………65
検診……………45	高次脳機能の評価……………41	高齢者疾患の診察上の注意点（東洋 医学臨床論）……………65
肩井……………57	後十字靱帯損傷（東洋医学臨床論） ……………66	高齢者疾患の特徴（東洋医学臨床論） ……………65
現代医学的診察法（東洋医学臨床論） ……………60	後縦靱帯骨化症（臨医各）……………38	高齢者疾患の臨床上の問題点（東洋 医学臨床論）……………65
現代医学的診断のプロセス（東洋医 学臨床論）……………60	恒常性……………59	高齢者の医療の確保に関する法律 ……………50
現代医学理論（東洋医学臨床論）…60	甲状腺癌（臨医各）……………37	高齢者の健康状態（東洋医学臨床論） ……………65
検体検査（臨医総）……………28	甲状腺機能亢進症（臨医各）……………37	高齢者の身体的特徴……………65
肩中愈……………56	甲状腺機能低下症（臨医各）……………37	高齢者の身体的な評価と指標（東洋 医学臨床論）……………65
肩貞……………56	甲状腺疾患……………37	高齢者の心理的特徴……………65
見当識障害（臨医総）……………25	甲状腺の位置……………11	高齢者の精神的な評価と指標（東洋 医学臨床論）……………65
原発性アルドステロン症（臨医各） ……………37	甲状腺の形……………11	抗レセプター抗体反応……………23
原発性肝癌（臨医各）……………35	甲状腺のホルモン……………16	後弯症（臨医各）……………38
原発性疾患……………20	甲状腺・副甲状腺疾患（臨医各）…37	鼓音（臨医総）……………27
原発性肥満（臨医各）……………37	甲状腺ホルモン……………11	五音……………55
腱板損傷（臨医各）……………38	構造……………9, 10	股関節……………5
懸壺……………57	拘束性肺疾患と胸部手術後……………43	股関節の運動……………7
顴髁……………56	拘束性肺疾患と高位脊髄損傷……………43	股関節の徒手による整形外科的検 査法（臨医総）……………28
	拘束性肺疾患と神経筋疾患……………43	呼吸……………15
	梗塞と終末動脈……………22	呼吸（生命徴候）……………27
	梗塞の好発臓器……………22	呼吸運動……………15
	梗塞の症状……………22	呼吸音（臨医総）……………27
	梗塞の定義……………22	呼吸器……………25
	梗塞の転帰……………22	呼吸器・胸壁疾患（臨医各）……………33
	梗塞の分類……………22	呼吸器・胸壁疾患の腫瘍性疾患（臨 医各）……………33
	公孫……………56	呼吸器系の構造……………15
	抗体……………23	呼吸器系の働き……………15
	抗体産生機序……………23	呼吸器のアレルギー性疾患（臨医各） ……………33
	後天性疾患……………20	呼吸機能検査（臨医総）……………29
	後天性免疫不全（臨医各）……………38	呼吸器の症候（臨医総）……………25
	後天性免疫不全症候群（臨医各）…31	呼吸器のリハビリテーション……………43
	後頭下筋……………6	
	喉頭癌（臨医各）……………39	
	後頭骨……………6	
	後頭神経痛（臨医各）……………33	
	後頭神経痛（東洋医学臨床論）……63	
	喉頭の構造……………8	
	高尿酸血症（臨医各）……………37	
	更年期障害（臨医各）……………36	
	更年期障害（東洋医学臨床論）……63	
	広汎性発達障害（臨医各）……………40	
	公費医療費の種類……………51	
	公費医療費の対象……………51	
	公費負担医療……………51	
	後腹筋……………6	
	項部の筋……………7	

コ

高位中枢からの影響（循環調節）…14
構音障害に対する言語聴覚療法……………42
公害（主なエピソードと原因）……………46
口蓋……………8
公害病……………20
口蓋骨……………6
口蓋扁桃……………9
抗核抗体（臨医総）……………29
硬化症・硬変……………22
硬化症と肺……………22
口渴（臨医総）……………25
口渴（東洋医学臨床論）……………61
行間……………57
交感神経系……………12
交感神経系（生理）……………17
口腔……………8
口腔疾患（臨医各）……………35
口腔内の消化……………15
口腔の観察（臨医総）……………26
口腔保健と全身の健康……………45
広頸筋……………7
硬結（経絡経穴概論）……………57

呼吸困難（臨医総）	25	骨の連結	4	哽声（臨医総）	25
呼吸困難（東洋医学臨床論）	61	骨盤	5	擦過輕擦法	58
呼吸中枢	16	骨盤と股関節の機能	42	撮診点	57
呼吸調節	81	骨盤の静脈	8	砂漠化	46
呼吸理学療法（脊髄損傷の急性期リ ハビリテーション）	43	骨盤の動脈	8	サルコペニアの評価	41
呼吸理学療法（慢性閉塞性肺疾患）	43	古法按摩の概要	58	サルモネラ症（臨医各）	31
五行	54	古法按摩の手技	58	三陰交	56
五行の色体表	54	鼓膜	12	三因論	55
五行論	54	コレステロール	29	Ⅲ型アレルギー	23
コクサッキーウイルス感染症（臨医 各）	31	混合腫瘍	24	参加の評価	41
国際保健活動	48	コンパートメント症候群（東洋医学 臨床論）	66	産業衛生管理	46
国民医療費	51	コンプライアンス	51	産業衛生におけるあん摩マッサージ 指圧治療（東洋医学臨床論）	66
国民栄養の現状	45	サ		産業衛生における身体的疲労の一般 的な対策（東洋医学臨床論）	66
国民健康・栄養調査	48	サーモグラフィ検査（臨医総）	29	産業衛生における物理的環境要因 （東洋医学臨床論）	66
国民生活基礎調査	48	細菌感染症（臨医各）	31	産業保健	46
巨闕	56	細菌性食中毒（臨医各）	31	三叉神経痛（臨医各）	33
五香	55	細菌性髄膜炎（臨医各）	32	三叉神経痛（東洋医学臨床論）	63
巨骨	56	細菌性赤痢（臨医各）	31	三焦の生理	55
鼓室	12	最高血圧（収縮期血圧）	14	三焦愈	57
腰の徒手による整形外科的検査法 （臨医総）	28	再生の定義	21	三次予防	45
腰は腎の府である	54	再生の法則	21	酸性雨	46
腰陽関	56	再生不良性貧血（臨医各）	36	酸素の不足	20
五色	55	臍帯	4	三大栄養素	15
個人情報保護に関する法律	50	在宅ケア	47	攢竹	57
個人情報保護制度	51	最低血圧（拡張期血圧）	14	三毒説	55
個人情報保護法	50	サイトカイン	21	三陽絡	57
五声	55	細胞外液浸透圧の調節	15	シ	
呼息	15	細胞外液量の調節	15	思	55
個体	14	細胞間結合装置	4	指圧の基本手技	58
個体の感受性を決定する要因（あま 指理論）	58	細胞骨格	4	指圧の絶対禁忌症	58
骨格筋	4	細胞－細胞関係	21	指圧の相対禁忌症	58
骨格筋の構造	17	細胞質	14	指圧の適応症	58
骨格筋の作用	17	細胞傷害と修復	21	至陰	57
骨格筋の種類	17	細胞小器官	4	シェーグレン症候群（臨医各）	38
骨格筋の神経支配	17	細胞性免疫	23	思・涎・肌肉・四肢を主る	54
骨格筋の働き	17	細胞性免疫の関係細胞	23	耳介	12
骨格系への影響（あま指理論）	59	細胞性免疫の役割	23	自家移植	24
骨化生	21	細胞の構造	4	痔核（臨医各）	35
骨・関節の触診（臨医総）	27	細胞の寿命	16	視覚器	12
骨腫瘍（臨医各）	38	細胞の働き	14	自覚症状（臨医総）	26
骨髄移植の特殊性	24	細胞分裂	4	視覚伝導路	12
骨髄化生	21	細胞膜	4	視覚の受容器	18
骨折（臨医各）	38	細胞－マトリックス関係	22	視覚の性質	18
骨折への対応（東洋医学臨床論）	66	細胞－マトリックス関係と遊走	22	視覚の伝導路	18
骨組織	4	再免許	49	耳管	9, 12
骨粗鬆症（臨医各）	38	サイロキシン	11	耳管開放症（臨医各）	39
骨粗鬆症（東洋医学臨床論）	62	作業環境管理	46	耳管機能不全（臨医各）	39
骨代謝性疾患（臨医各）	38	作業管理	46	耳管狭窄症（臨医各）	39
骨度法	56	作業関連疾患	46	弛緩性便秘（東洋医学臨床論）	62
骨軟化症（臨医各）	38	作業療法（臨医総）	30	色素変性	21
骨肉腫（臨医各）	38	作業療法の種類	42	子宮癌（臨医各）	36
骨の形状	4	作業療法の定義	42	子宮筋腫（臨医各）	36
骨の成長	4	鎖骨	5	子宮頸癌（臨医各）	36
骨の発生	4	坐骨神経絞扼障害（臨医各）	32	子宮広間膜	10
		坐骨神経痛（臨医各）	33		
		左心不全	34		

子宮体癌（臨医各）	36	姿勢のコントロール	42	自由下肢の骨	5
糸球体疾患（臨医各）	36	姿勢反射	42	住環境	41
糸球体ろ過	15	姿勢反射中枢	17	住環境の評価	41
子宮内膜症（臨医各）	36	脂腺	13	住居	45
子宮の位置	10	自然治癒力の賦活（東洋医学臨床論）	60	住居と健康	45
子宮の構造	10	自然免疫	18, 23	充血の原因	22
子宮壁の構造	10	死体現象	21	充血の徴候	22
事業所内施術者の業務（東洋医学臨床論）	66	七情（怒・喜・思・憂・恐・悲・驚）	55	充血の定義	22
事業所内施術者の役割（東洋医学臨床論）	66	市中肺炎（臨医各）	33	集合リンパ小節	9
刺激伝導系	8	湿	55	重症筋無力症（臨医各）	32
刺激の受容（あま指理論）	58	歯痛（東洋医学臨床論）	61	自由上肢の骨	5
刺激の伝導（あま指理論）	58	膝蓋骨	5	重心と重心線	42
刺激量（あま指理論）	58	膝関	57	十二指腸	9
刺激量を決定する因子（あま指理論）	58	疾患の統計	48	終末動脈	22
止血機構	14	日月	57	絨毛	4
止血法（臨医総）	30	失語・失認・失行（臨医総）	25	臍会	57
自己	18	失語症と構音障害に対する治療	42	手技療法の治療的作用	58
篩骨	6	失語症に対する言語聴覚療法	42	腧穴	56
自己免疫	23	失語症の評価	41	取穴法	56
自己免疫疾患	23	失神（臨医総）	26	手根管症候群（臨医各）	32
自己免疫疾患（臨医各）	37	失神予防（東洋医学臨床論）	65	手根管症候群（東洋医学臨床論）	63
自己免疫疾患と膠原病	37	湿性壊疽	21	手根骨同士の間節	5
自己免疫の概念	23	疾病構造	51	手根骨と中手骨との間節	5
自己免疫の発生機序	23	疾病の経過	20	受精	4
支持細胞	16	疾病（疾患）の定義	20	主体環境系	46
支持組織	4	疾病の転帰	20	出血傾向（臨医総）	25
四肢長および周径の計測（臨医総）	27	疾病（疾患）の分類	20	出血性素因（臨医各）	36
志室	57	疾病の予後	20	出血性素質（素因）	22
脂質	15	疾病予防	45	出血性素質（素因）と血液側	22
痔疾（東洋医学臨床論）	63	児童虐待	46	出血性素質（素因）と血管側	22
脂質異常症（臨医各）	37	児童福祉法	50	出血性素質（素因）と代表的疾患	22
脂質異常症（東洋医学臨床論）	63	シナプス	4	出血の原因	22
脂質検査（臨医総）	29	シナプス伝達	16	出血の定義	22
脂質代謝異常（臨医各）	37	シナプスの構造	16	出血の転帰	22
四肢の観察（臨医総）	27	シナプスの働き	16	出産	16
歯周病（臨医各）	35	死の定義	21	受動免疫	23
視床	11	シーハン症候群（臨医各）	37	手内筋	6
視床下部	11	四白	56	守秘義務	49, 51
視床下部のホルモン	16	紫斑病（臨医各）	36	腫瘍ウイルス	24
視床と意識	17	耳鼻咽喉疾患（臨医各）	39	腫瘍血管	24
視床と運動	17	自閉症（臨医各）	40	腫瘍細胞の形態的特徴	24
視床と感覚	17	脂肪変性	21	受容体	16
自助具	42	耳目	55	腫瘍と間質マトリックスとの関係	24
視診（臨医総）	26	シモンズ病（臨医各）	37	腫瘍における実質と間質の関係	24
四診情報と八綱	55	社会的リハビリテーション	41	腫瘍の形態学的特徴	24
視診の意義（臨医総）	26	社会不安障害（臨医各）	39	腫瘍の浸潤性発育（進行度）	24
視診の方法（臨医総）	26	社会福祉（保険）関係の法律	50	腫瘍の進展	24
四診法（東洋医学臨床論）	60	社会復帰への援助	42	腫瘍の増殖	24
四診法の名称と概要（東洋医学臨床論）	60	社会保障制度	51	腫瘍の定義	24
姿勢	42	斜角筋	7	腫瘍の転移	24
支正	56	尺沢	56	腫瘍の病期	24
姿勢制御	17	斜頸（臨医各）	38	腫瘍の分類	24
姿勢と脊髄反射	42	視野欠損（臨医総）	25	腫瘍の膨張性発育	24
姿勢の観察（臨医総）	26	尺骨神経絞扼障害（臨医各）	32	腫瘍の連続性発育	24
		尺骨神経麻痺（東洋医学臨床論）	63	腫瘍マーカー	24
		ジャンパー膝（東洋医学臨床論）	65	腫瘍マーカー検査（臨医総）	29
		縦隔	8	腫瘍免疫	24

受療率	48	上肢の主要な筋の体表解剖	7	上皮組織の分類	4
循環改善作用（あま指理論）	58	上肢の静脈	8	上皮内癌	24
循環器疾患（臨医各）	33	上肢の動脈	8	承扶	57
循環器疾患のリハビリテーション	43	上肢の骨の体表解剖	5	漿膜	8
循環系への影響（あま指理論）	59	小循環（病理）	22	静脈	7
循環障害	22	症状（症候）（病理）	20	静脈還流	14
循環中枢	16	上水道の消毒	45	静脈系	8
循環調節	14	上水道の水質基準	45	静脈系の血栓	22
循環調節における高位中枢からの影響	14	浄水法	45	静脈血	14
循環の反射性調節	14	上星	56	静脈性出血	22
循経感伝現象	57	昇清を主る	54	小網	10
暑	55	常染色体異常	21	章門	57
至陽	56	焦燥感（東洋医学臨床論）	66	衝陽	56
小陰唇	11	消退期	20	消滯	57
消化	15	上大静脈に注ぐ枝	8	上腕骨	5
少海	56	少沢	56	上腕骨顆上骨折（臨医各）	38
小海	56	小腸	9	上腕の筋	6
照海	57	小腸内の吸収及び調節	15	上腕の屈筋群	6
障害者総合支援法	50	小腸内の消化	15	上腕の伸筋群	6
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律	50	小腸の機能	9	諸気を主宰し、全身の気機を主る	55
障害の概念	41	小腸の生理	55	職域保健	45
障害の評価	41	小腸の組織構造	9	職業起因性症状のあん摩マッサージ指圧治療（東洋医学臨床論）	66
消化管（生理）	15	小腸癒	57	職業的リハビリテーション	41
消化管の基本構造	8	焦点発作（臨医各）	33	職業病	46
消化管の構造	15	情動行動の中枢	17	職業倫理とは	51
消化管の働き	15	消毒	45	食作用	14
消化管ホルモン	16	消毒実施上の注意	47	触刺激と侵害抑制調節	59
消化器系の構造	15	消毒の意義	47	食事摂取基準	45
消化器系の働き	15	消毒の応用	47	食習慣	45
消化器疾患（臨医各）	35	消毒の化学的方法	47	食事療法の概要（臨医総）	29
消化器症状（東洋医学臨床論）	66	消毒の種類	47	触診（臨医総）	27
消化器の症候（臨医総）	25	消毒の対象	47	触診の意義（臨医総）	27
上顎骨	6	消毒の物理的方法	47	触診の方法（臨医総）	27
松果体の位置	11	消毒の物理的方法の種類	47	食生活指針	45
消化に関する中枢	16	消毒の方法	47	褥瘡（東洋医学臨床論）	65
上気道炎（臨医各）	33	消毒物件と消毒法の選択	47	食中毒	45
消極的要件	49	消毒法一般	47	食道癌（臨医各）	35
承筋	57	消毒薬の作用	47	食道疾患（臨医各）	35
症候	25	消毒薬の種類	47	食道静脈瘤（臨医各）	35
症候性てんかん（臨医各）	33	消毒薬の使用法	47	食道の位置	9
上行性伝導路	11	小児アレルギー性疾患（臨医各）	40	食道の構造	9
症候性肥満（臨医各）	37	小児気管支喘息（臨医各）	40	食道の生理的狭窄	9
上行大動脈とその枝	8	小児疾患（臨医各）	40	食毒	55
猩紅熱（臨医各）	31	小児疾患の特徴	21	食と健康	45
小細胞癌（臨医各）	33	小児神経症（東洋医学臨床論）	64	職場環境の評価	41
少子化	46	小児喘息（東洋医学臨床論）	64	職場における身体的疲労の一般的な予防策（東洋医学臨床論）	66
小指球筋	7	小児のリハビリテーション	43	職場のメンタルヘルス	46
硝子体	12	小児夜尿症（東洋医学臨床論）	64	植物人間	21
上肢帯の筋	6	小脳	11	食物アレルギー（臨医各）	37
上肢帯の骨	5	小脳と運動調節	17	食欲不振（東洋医学臨床論）	61
上肢痛（手の痛み含む）（東洋医学臨床論）	60	小脳と姿勢制御	17	鋤骨	6
上室性期外収縮（臨医各）	34	小脳による運動調節	18	女子アスリートの身体的特徴（東洋医学臨床論）	65
上肢の運動	7	証の立て方	55	女性生殖器	10
上肢の関節	5	上皮小体の位置	11	女性生殖器（生理）	16
上肢の筋	6	上皮小体の数	11	女性生殖器疾患（臨医各）	36
		上皮性腫瘍	24		
		上皮組織の細胞間結合装置	4		

女性の尿道	10	神経膠細胞	4	心臓の位置	7
ショック（臨医総）	25	神経膠腫（臨医各）	32	腎臓の位置	10
ショック（臨医各）	35	神経興奮伝達方向性	11	心臓の壁	7
ショック臓器	23	神経細胞	4	腎臓の血管	10
ショックの合併症・続発性病変	23	神経疾患のリハビリテーション	44	心臓の構造	14
ショックの症状	23	神経症（臨医総）	30	腎臓の構造	10
ショックの定義	23	神経症（臨医各）	39	心臓の症候（臨医総）	25
ショックの分類	23	神経鞘腫（臨医各）	32	心臓の触診（臨医総）	27
徐脈性不整脈（臨医各）	34	神経性過食症（臨医各）	39	腎臓の組織構造	10
自律機能の統合	17	神経性下垂体	11	腎臓の肉眼構造	10
自律神経系	12	神経性食欲不振症（臨医各）	39	心臓の働き	14
自律神経系（生理）	17	神経組織	4	腎臓の働き	14
自律神経系の受容体	17	神経痛（臨医各）	33	心臓の弁	8
自律神経系の神経伝達物質	17	神経伝達物質	16	腎臓のホルモン	16
自律神経系の中樞	17	神経の興奮伝導	16	心臓弁膜症（臨医各）	34
自律神経失調症	20	神関	56	身体各部位・各器官の成長	16
自律神経調節の特徴	17	腎血管性高血圧（臨医各）	34	身体各部の機能	42
自律神経の関与する反射	17	進行癌	24	身体各部の望診（体型、顔面）	55
自律神経の日内リズム	18	進行期	20	身体活動と健康	45
自律神経反射（あま指理論）	58	新興・再興感染症	47	身体活動の意義	45
自律神経反射の検査（臨医総）	27	進行性筋ジストロフィー（臨医各）	32	身体活動の増進	45
次髂	57	進行性筋ジストロフィーのリハビリテーション	43	身体機能の加齢変化	16
視力低下（臨医総）	25	人口静態統計	48	身体計測（臨医総）	27
痔瘻（臨医各）	35	人口動態統計	48	身体計測の意義（臨医総）	27
腎盂腎炎（臨医各）	36	腎細胞癌（臨医各）	36	身体計測の方法（臨医総）	27
津液の生理	54	診察関連用語の意義	26	身体構造の評価	41
津液の生理作用	54	診察の意義（臨医総）	26	身体障害者の動向	41
津液の病証	55	診察の一般的心得（臨医総）	26	身体障害者福祉法	50
津液の病証の概要	55	診察の記録（臨医総）	26	身体診察（臨医総）	26
津液の病理変化	54	診察の順序（臨医総）	26	人体組織の再生力の違いによる分類	21
津液不足	54	診察法（東洋医学臨床論）	26	身体組織への影響（あま指理論）	59
心音・心雑音（臨医総）	27	診察法の種類（臨医総）	26	身体の運動	17
心機能	14	心室	7	人体の区分	4
腎機能検査（臨医総）	28	心疾患の評価	43	人体の構成	4
心機能の調節	14	心疾患のリスク管理	43	人体の切断面	4
深胸筋	6	心疾患のリハビリテーションとケア	43	人体の方向	4
心筋	4	心室細動（臨医各）	34	心タンポナーデ（臨医各）	34
心筋炎（臨医各）	34	腎実質性高血圧（臨医各）	34	身柱	56
真菌感染症（臨医各）	31	心室性期外収縮（臨医各）	34	身長・体重の経時的変化	16
心筋・心膜疾患（臨医各）	34	心室中隔欠損症（臨医各）	34	身長の計測（臨医総）	27
真菌性髄膜炎（臨医各）	32	心室頻拍（臨医各）	34	心的外傷後ストレス障害（臨医各）	40
心筋の特性	14	侵襲期（進行期）	20	心電図（臨医総）	29
神経	16	滲出液	22	浸透	14
人迎	56	腎循環	15	神道	56
神経、運動器の症候（臨医総）	25	心身一如	54	浸透圧（体液の）	14
神経因性膀胱（臨医各）	36	心身機能の評価	41	振動と健康	46
神経・筋疾患（臨医各）	31	心身症	20	侵入経路	46
神経筋疾患（臨医各）	31	心身症（臨医総）	30	腎・尿路結石（臨医各）	36
神経筋接合部	17	心身症（臨医各）	39	心の生理	54
神経筋接合部疾患（臨医各）	32	心身の調整（東洋医学臨床論）	65	腎の生理	54
神経・筋の感染性疾患（臨医各）	32	シンスプリント（東洋医学臨床論）	65	深背筋	6
神経・筋の変性疾患（臨医各）	32	心性浮腫	23	真皮	12
神経系への影響（あま指理論）	59	腎性浮腫	23	新皮質	17
神経系の検査の意義（臨医総）	27	心臓	7	腎泌尿生殖器疾患（臨医各）	36
神経系の検査の方法（臨医総）	27	心臓突然死（臨医各）	34	腎泌尿生殖器の感染症（臨医各）	36
神経系の構成	11			腎泌尿生殖器の腫瘍性疾患（臨医各）	36
神経系の診察（臨医総）	26				
神経系の分類	16				
神経原性萎縮	21				

深部感覚	18
深部感覚の検査（臨医総）	27
深部感覚の受容（あま指理論）	58
深部感覚の伝導（あま指理論）	58
深部静脈血栓症（臨医各）	34
心不全	23
心不全（臨医各）	34
腎不全（臨医各）	36
心不全の合併症・続発性病変	23
心不全の定義	23
心不全の分類	23
深部反射の検査（臨医総）	27
心房	7
心房細動（臨医各）	33
心房性期外収縮（臨医各）	34
心房粗動（臨医各）	34
心房中隔欠損症（臨医各）	34
心膜	7
心膜炎（臨医各）	34
じんま疹（臨医各）	37
蕁麻疹（東洋医学臨床論）	64
神門	56
心愈	57
腎愈	57
心理機能の評価	41
心理・精神機能の症候（臨医総）	25
診療所	51
心理療法の概要（臨医総）	30
神を蔵す	54

ス

水（津液）	15
頭維	56
水液停滞	54
膀胱	10
膀胱（臨医各）	35
膀胱機能検査（臨医総）	28
水穀の受納・腐熟を主る	55
水質汚濁	45
水腫	22
水腫と浮腫	22
髄鞘	4
水晶体	12
水腎症（臨医各）	36
膀胱石症（臨医各）	35
水泉	57
膀胱疾患（臨医各）	35
膀胱の位置	10
膀胱の形	10
膀胱の組織構造	10
膀胱のホルモン	16
錐体外路系	18
錐体路系	18
推定・鑑別と適否および禁忌の判断 （東洋医学臨床論）	60
膀胱	11
水痘（臨医各）	31
水道を通調する	54

水毒	55
膵内分泌疾患	37
水の生理	54
水の生理作用	54
水の病証	55
水の病証の概要	55
水の病理変化	54
髄膜	11
髄膜炎（臨医各）	32
髄膜刺激症状の検査（臨医総）	28
髄膜腫（臨医各）	32
睡眠	17
睡眠時無呼吸症候群（臨医各）	33
睡眠障害（臨医総）	25
睡眠障害（臨医各）	39
睡眠障害（東洋医学臨床論）	60
睡眠不足（東洋医学臨床論）	66
膝リパーゼ（臨医総）	28
髄を生じ、脳を充す	54
健やか親子 21	47
スタンダードプリコーション	48
頭痛（臨医総）	26
頭痛（東洋医学臨床論）	60
ストレス	46
ストレス学説とあん摩・マッサージ・ 指圧との関連	59
ストレス学説と内分泌系との関連 （あま指理論）	59
ストレス学説の概要（あま指理論）	59
ストレス学説の提唱者	59
ストレッサー（あま指理論）	59
スポーツ外傷（臨医各）	38
スポーツ障害（臨医各）	38
スポーツ傷害とあん摩マッサージ指 圧治療との関連	65
スポーツ傷害に対するあん摩マッサ ージ指圧治療の禁忌（東洋医学 臨床論）	65
スポーツ傷害に対するあん摩マッサ ージ指圧治療の適応（東洋医学 臨床論）	65
スポーツ傷害に対するあん摩マッサ ージ指圧治療の不適応（東洋医 学臨床論）	65
スポーツ傷害に対する応急手当（東 洋医学臨床論）	65
スポーツ傷害による筋緊張の緩解 （東洋医学臨床論）	65
スポーツ傷害による筋肉痛（遅発性 筋痛含む）に対する処置及び対 応（東洋医学臨床論）	65
スポーツ傷害による筋疲労に対する 処置及び対応（東洋医学臨床論）	65
スポーツ傷害の定義（東洋医学臨床 論）	65
スポーツ傷害の分類（東洋医学臨床 論）	65

スポーツ前後の処置（東洋医学臨床 論）	65
スポンディロセラピー	58
スポンディロセラピーの原理	58
スポンディロセラピーの創始者	58

セ

精液	10
清音（臨医総）	27
生化学検査（臨医総）	28
生活期リハビリテーション	41
生活指導（東洋医学臨床論）	60, 66
生活習慣	45
生活習慣と健康	45
生活習慣病	21
生活習慣病（東洋医学臨床論）	66
生活習慣病対策	47
生活習慣病に対する行政の対策	47
生活習慣病の現状と動向	47
生活習慣病の予防のための運動（東 洋医学臨床論）	66
生活習慣病の予防のための食事（東 洋医学臨床論）	66
生活習慣病の予防のための生活指導 （東洋医学臨床論）	66
生活の質（QOL）	47
生活保護法	50
精管	10
性器クラミジア感染症（臨医各）	31
性器出血（臨医総）	25
正経十二経脈の接続	56
正経十二経脈の走行方向	56
正経十二経脈の分布概要	56
正経十二経脈の名称	56
正経十二経脈の流注の概要	56
生後循環への切り替わり	8
精細管	10
精子形成	16
精子産生	10
静止電位	16
性周期	16
生殖	16
成人・高齢者の保健	47
精神障害と社会復帰	46
精神障害と偏見	46
精神状態の観察（臨医総）	26
精神状態の検査（臨医総）	27
精神・心身医学的疾患（臨医各）	39
成人 T 細胞白血病（臨医各）	36
精神の健康障害対策と健康増進	46
精神保健	46
精神保健及び精神障害者福祉に関す る法律	50
精神保健福祉活動	46
成人夜尿症（東洋医学臨床論）	64
精神療法（臨医総）	30
性腺	11
性染色体異常	20

精巣……………11	脊髄損傷による障害……………43	摂食嚥下障害に対する治療……………42
精巣下降……………10	脊髄損傷による排尿・排便障害……………43	摂食障害（臨医各）……………39
精巣上体……………10	脊髄損傷の受傷原因……………43	接触性皮膚炎（臨医各）……………39
精巣のホルモン……………16	脊髄損傷のリハビリテーション……………43	接触性皮膚炎（東洋医学臨床論）……………64
声帯……………8	脊髄損傷レベルと運動機能……………43	接触転移……………24
生体機能の調節（東洋医学臨床論）……………60	脊髄損傷レベルと日常生活動作（ADL）……………43	切診……………55
生態系……………46	脊髄内の伝導路……………16	舌診（舌質、舌苔）……………55
生体表面のバリア……………18	脊髄における運動調節……………18	舌苔……………55
声帯ポリープ（臨医各）……………39	脊髄の区分……………11	絶対禁忌症……………58
生体リズム……………18	脊髄の内部構造……………11	切断から義肢装着までの流れ……………43
清濁の分別を主る……………55	脊髄反射……………16, 42	切断後の合併症……………43
正中神経麻痺（東洋医学臨床論）……………63	咳喘息（臨医各）……………33	切断の原因……………43
成長……………16	脊柱管……………4	切断の特徴……………43
成長ホルモン分泌不全性低身長症（臨医各）……………37	脊柱管狭窄症（臨医各）……………38	切断の評価……………43
生物学的因子……………20	脊柱と体幹の機能……………42	切断の分類と特徴……………43
生物的環境と健康……………46	脊柱の構成……………4	切断のリハビリテーション……………43
生物濃縮……………46	脊柱の弯曲……………5	舌に開竅する……………54
晴明……………57	脊椎圧迫骨折（臨医各）……………38	舌乳頭……………9
生命徴候（臨医総）……………27	脊椎疾患（臨医各）……………38	舌の筋……………9
生命の質（QOL）……………51	脊椎分離すべり症（臨医各）……………38	舌の神経……………9
生命表……………48	脊椎（分離）すべり症（東洋医学臨床論）……………63	舌扁桃……………9
生命倫理に関する諸宣言……………51	咳と痰（東洋医学臨床論）……………61	線維筋痛症（臨医各）……………38
生理学的検査（臨医総）……………29	石門……………56	線維筋痛症（東洋医学臨床論）……………64
生理機能・画像検査（臨医総）……………29	施術器具の消毒法……………47	線維素溶解……………14
生理機能の特徴……………14	施術室の消毒法……………47	線維膜……………12
生理的萎縮……………21	施術者等に関する罰則……………49	腺癌（臨医各）……………33
生理的狭窄……………9, 10	施術者としての倫理……………51	前癌病変……………24
生理的再生……………21	施術者の消毒法……………47	浅胸筋……………6
生理的老化の特徴……………16	施術者の把握……………49	前駆期……………20
精路……………10	施術上の一般的注意（あま指理論）……………58	潜血反応（臨医総）……………28
精を蔵し、発育・生殖を主る……………54	施術所に関する罰則……………50	仙骨……………5
咳・痰（臨医総）……………25	施術所に対する都道府県知事の監督……………49	仙骨神経……………12
脊髄腫瘍（臨医各）……………32	施術所の意義……………49	仙骨神経叢……………12
脊髄症（臨医各）……………38	施術所の備えるべき要件……………49	栓子の種類……………22
脊髄小脳変性症（臨医各）……………32	施術所の届け出……………49	前十字靭帯損傷（東洋医学臨床論）……………66
脊髄小脳変性症のリハビリテーション……………44	施術所の名称の制限……………49	腺上皮……………4
脊髄神経の一般的構造……………12	施術の作用（あま指理論）……………58	全身倦怠感（臨医総）……………25
脊髄損傷（臨医各）……………38	施術の作用と生体反応（あま指理論）……………58	全身疾患に伴う肺病変（臨医各）……………33
脊髄損傷回復期の合併症管理……………43	施術の生体反応（あま指理論）……………58	全身循環障害……………23
脊髄損傷回復期の在宅復帰に対する準備……………43	施術部位の消毒法……………47	全身性萎縮……………21
脊髄損傷回復期の作業療法……………43	積極的要件……………49	全身性うっ血……………22
脊髄損傷回復期の社会復帰支援……………43	切経……………55	全身性エリテマトーデス（臨医各）……………37
脊髄損傷回復期の理学療法……………43	赤血球……………14	全身性硬化症（臨医各）……………37
脊髄損傷回復期リハビリテーション……………43	赤血球（臨医総）……………28	全身性硬化症（東洋医学臨床論）……………64
脊髄損傷急性期の関節拘縮予防……………43	赤血球疾患（臨医各）……………36	全身性疾患……………20
脊髄損傷急性期の呼吸理学療法……………43	赤血球沈降速度（臨医総）……………28	全身性充血……………22
脊髄損傷急性期の褥瘡予防……………43	舌骨……………6	全身性浮腫……………22
脊髄損傷急性期の日常生活動作（ADL）訓練……………43	舌骨下筋群……………7	全身の症候（臨医総）……………25
脊髄損傷急性期リハビリテーション……………43	舌骨上筋群……………7	全身のリンパ本幹……………8
脊髄損傷後に生じる合併症……………43	舌質……………55	腺性下垂体……………11
脊髄損傷による感覚障害……………43	摂食嚥下機能……………41	先端巨大症（臨医各）……………37
脊髄損傷による呼吸機能障害……………43	摂食嚥下機能の評価……………41	前庭……………12
脊髄損傷による四肢麻痺と対麻痺……………43	摂食嚥下障害に対する言語聴覚療法……………42	前庭器官……………18

.....	64
先天性疾患と後天性疾患	20
先天性心疾患（臨医各）	34
先天性免疫不全（臨医各）	38
前頭骨	6
前頭側頭型認知症（臨医各）	32
浅背筋	6
宣発（宣散）・肅降を主る	54
全般性不安障害（臨医各）	39
全般発作（臨医各）	33
潜伏期	20
前腹筋	6
せん妄（臨医各）	40
専門職連携	51
線溶	14
前葉	11
前立腺炎（臨医各）	36
前立腺癌（臨医各）	36
前立腺肥大症（臨医各）	36
前腕の筋	6
前腕の屈筋群	6
前腕の伸筋群	6
前腕の骨	5

ソ

燥	55
騒音と健康	46
臓器移植	51
早期癌	24
臓器感覚	18
双極性障害（臨医各）	39
装具	42
造血器の症候（臨医総）	25
走行	9
相剋（相克）	54
総コレステロール（臨医総）	29
躁状態（臨医総）	25
躁状態（臨医各）	39
創傷治癒	21
創傷治癒と過剰線維化	22
創傷治癒の合併症	22
創傷治癒の合併症と収縮	22
創傷治癒の合併症と瘢痕	22
創傷治癒の経過	22
創傷治癒を妨げる因子	22
藏象論	54
増殖の定義	21
相生	54
相対禁忌症	58
総蛋白（臨医総）	28
糟粕の伝化を主る	55
総腓骨神経絞扼障害（臨医各）	33
総腓骨神経麻痺（東洋医学臨床論）	63
総ビリルビン（臨医総）	28
臓腑病証	55
臓腑病証の概要	55
僧帽弁狭窄症（臨医各）	34

僧帽弁閉鎖不全症（臨医各）	34
足弓	6
塞栓症の種類	22
塞栓症の定義	22
塞栓症の発生機序	22
足底筋膜炎（東洋医学臨床論）	66
側頭骨	6
足背筋	7
続発性疾患	20
側腹筋	6
側副循環の症状	22
側副循環の定義	22
側副靱帯損傷（東洋医学臨床論）	66
側弯症（臨医各）	38
鼠径ヘルニア（臨医各）	35
組織	4, 14
組織構造	10
組織呼吸	15
組織修復の細胞・細胞関係	21
咀嚼	15
咀嚼筋	7
疏泄を主る	54
足根骨同士の関節	5
足根骨と中足骨との関節	5
尊厳死	51

タ

ターミナルケア	51
第一次治癒	21
第1仙椎に付着する	55
体液調節	15
体液の区分	14
体液の組成	14
体液の電解質調節	18
体液の働き	14
体液のpH	14
体液のpH調節	15
体流量	14
太淵	56
大横	56
体温（臨医総）	27
体温調節	15
体温調節中枢	15
体温調節反応	15
体温の生理的変動	15
体温の部位差	15
体格・体型の観察（臨医総）	26
体幹の運動	6
体幹の筋	6
体幹の主要な筋の体表解剖	6
第9胸椎に付着する	54
太溪	57
体型	26
大迎	56
大巨	56
対光反射中枢	17
第5胸椎に付着する	54
大細胞癌（臨医各）	33

第3胸椎に付着する	54
胎児循環の経路	8
胎児の發育	16
代謝	15
代謝・栄養疾患（臨医各）	36
第11胸椎に付着する	54
第10胸椎に付着する	55
第12胸椎に付着する	55
大十二指腸乳頭	9
体重の経時的変化	16
体重の計測（臨医総）	27
大循環（病理）	22
体循環	7
体循環の静脈系	8
体循環の動脈系	8
太衝	57
大鍾	57
代償性肥大	21
带状疱疹（臨医各）	31
带状疱疹神経痛（带状疱疹後神経痛含む）（東洋医学臨床論）	63
対症療法（臨医総）	29
大食症（臨医各）	39
体性・運動反射（あま指理論）	58
体性感覚	18
体性感覚の伝導路	18
耐性菌	23
体性神経系	17
体性・内臓反射	17
大腿骨	5
大腿骨頸部骨折（臨医各）	38
大腿骨頸部骨折の症状	44
大腿骨頸部骨折の生活指導	44
大腿骨頸部骨折の評価	44
大腿骨頸部骨折のリハビリテーション	44
大腿の筋	7
大腿の屈筋群	7
大腿の伸筋群	7
大腿の内転筋群	7
大腸癌（臨医各）	35
大腸憩室（臨医各）	35
大腸内の吸収及び調節	15
大腸内の消化	15
大腸の機能	9
大腸の生理	55
大腸の組織構造	9
大腸ポリープ（臨医各）	35
大腸癒	57
大椎	56
多遺伝子疾患	21
多遺伝子疾患の定義	21
大動脈炎症候群（臨医各）	34
大動脈解離（臨医各）	34
大動脈弓とその枝	8
大動脈弁狭窄症（臨医各）	34
大動脈弁閉鎖不全症（臨医各）	34
大動脈瘤（臨医各）	34
第二次治癒	21

つわり（東洋医学臨床論）……………61

テ

低血圧症（臨医各）……………34
低血糖症（臨医各）……………37
ディッセル腔……………10
手関節と手指の機能……………42
適応症……………58
適応障害……………46
手三里……………56
鉄欠乏性貧血（臨医各）……………36
鉄欠乏性貧血（東洋医学臨床論）…65
テニス肘（東洋医学臨床論）…………65
手の痛み（東洋医学臨床論）…………60
手の関節の運動……………7
手の筋……………6
手の厥陰心包経……………57
手の少陰心経……………56
手の少陽三焦経……………57
手の太陰肺経……………56
手の太陽小腸経……………56
手の骨……………5
手の陽明大腸経……………56
デュシェンヌ型筋ジストロフィー（臨医各）……………32
デルマトーム……………12
転移……………24
転移性肝癌（臨医各）……………35
転移性骨腫瘍（臨医各）……………38
転移性脳腫瘍（臨医各）……………32
転移性肺癌（臨医各）……………33
てんかん（臨医各）……………33
転帰（臨医総）……………26
天人合一思想……………54
天枢……………56
伝染性疾患……………20
天宗……………56
天柱……………57
転調作用（あま指理論）……………59
転倒予防（東洋医学臨床論）…………65
伝導路……………11
天髖……………57

ト

怒……………55
湯液（和漢薬）……………56
湯液の概要……………56
同化……………14
頭蓋骨……………6
頭蓋骨の構成……………6
動悸（東洋医学臨床論）……………61
同系移植……………24
頭頸部の観察（臨医総）……………26
頭頸部の筋……………7
頭頸部の静脈……………8
頭頸部の動脈……………8
統血を主る……………54

統合失調（臨医各）……………39
統合失調症（臨医各）……………39
橈骨遠位端骨折（臨医各）……………38
橈骨・尺骨の連結……………5
橈骨手根関節……………5
橈骨神経絞扼障害（臨医各）…………32
橈骨神経麻痺（東洋医学臨床論）…63
糖質……………15
等尺性収縮……………17
同種移植……………24
凍傷（臨医各）……………39
瞳子膠……………57
同身寸法……………56
糖代謝異常（臨医各）……………36
糖代謝関連検査（臨医総）……………28
頭頂骨……………6
等張性収縮……………17
糖尿病……………21
糖尿病（臨医各）……………36
糖尿病性昏睡（臨医各）……………37
糖尿病性腎症（臨医各）……………36
糖尿病性網膜症（臨医各）……………39
糖尿病の合併症……………21
糖尿病慢性合併症（臨医各）…………37
頭部外傷（臨医各）……………31
洞不全症候群（臨医各）……………34
頭部の筋……………7
動脈……………7
動脈系……………8
動脈系の血栓……………22
動脈血……………14
動脈硬化……………21
動脈硬化と合併症……………21
動脈性出血……………22
東洋医学的診察法（東洋医学臨床論）……………55
東洋医学的診察法と証の立て方…………55
東洋医学的診断のプロセス（東洋医学臨床論）……………60
東洋医学の意義……………54
東洋医学の治療法……………56
東洋医学理論に基づく治療原則（東洋医学臨床論）……………60
特異性炎……………23
特殊な部位の循環……………14
特殊療法（臨医総）……………29
毒性試験……………46
特発性疾患……………20
特発性心筋症（臨医各）……………34
特発性てんかん（臨医各）……………33
特発性肺線維症（臨医各）……………33
特発性肋間神経痛（東洋医学臨床論）……………63
犢鼻……………56
督脈……………56
吐血……………25
徒手による整形外科的検査法（臨医総）……………28
突発性難聴（臨医各）……………39

ドライアイ（臨医各）……………39
トリガーポイント……………57
怒・涙・筋・爪を主る……………54

ナ

内因性発痛物質……………18
内因とアレルギー……………20
内因と一般素因（年齢、性、人種、臓器）……………20
内因と遺伝子異常……………20
内因と心因性疾患……………20
内因と染色体異常……………20
内因と内分泌異常……………20
内因と病的素因……………20
内因と免疫異常……………20
内関……………57
内寛骨筋……………7
内呼吸……………15
内耳……………12
内視鏡検査（臨医総）……………29
内傷病の鑑別……………55
内臓感覚……………18
内臓求心性神経……………17
内臓系への影響（あま指理論）…………59
内臓・体性反射……………17
内臓痛覚……………18
内臓・内臓反射……………17
内庭……………56
内胚葉……………4
内反足（臨医各）……………38
内部環境……………14
内分泌異常と下垂体……………20
内分泌異状と甲状腺……………20
内分泌異状と睪島……………20
内分泌異状と副腎髄質……………20
内分泌異状と副腎皮質……………20
内分泌機能の日内リズム……………18
内分泌疾患（臨医各）……………37
内分泌性萎縮……………21
内分泌性高血圧（臨医各）……………34
内分泌性肥大……………21
名のみありて、形なし……………55
軟口蓋……………8
軟骨組織……………4
難聴（東洋医学臨床論）……………61
難聴（臨医総）……………25
軟膜……………11

ニ

Ⅱ型アレルギー……………23
2型糖尿病（臨医各）……………37
2型糖尿病（東洋医学臨床論）…………63
肉芽腫性炎……………23
肉芽組織……………21
肉離れ（東洋医学臨床論）……………66
二次救命処置（臨医総）……………30
二次性高血圧（臨医各）……………34

二次性ネフローゼ症候群（臨医各）	36
二次性肥満（臨医各）	37
二次予防	45
日常生活環境と健康	45
日常生活動作（ADL）の訓練	42, 43
日常生活動作（ADL）の評価	41
日内リズム	18
日内リズムの正常化	18
日内リズムの変更	18
二分脊椎のリハビリテーション	43
二便	55
乳癌（臨医各）	39
乳根	56
乳歯	9
乳汁分泌	16
乳汁分泌不全（東洋医学臨床論）	61
乳腺	13
乳腺炎（臨医各）	39
乳腺症（臨医各）	39
乳腺・乳房疾患（臨医各）	39
乳頭部癌（臨医各）	35
ニューモシスチス肺炎（臨医各）	31
ニューロン	4, 16
ニューロンの構造	16
ニューロンの働き	16
尿アセトン体	28
尿管の構造	10
尿管の生理的狭窄	10
尿検査（臨医総）	28
尿細管の再吸収	15
尿細管の分泌	15
尿酸（臨医総）	28
尿酸代謝異常（臨医各）	37
尿失禁（東洋医学臨床論）	65
尿生成	15
尿蛋白（臨医総）	28
尿沈渣（臨医総）	28
尿酸（臨医総）	28
尿道	10
尿道炎（臨医各）	36
尿の色（臨医総）	28
尿の組成	15
尿の比重（臨医総）	28
尿崩症（臨医各）	37
尿量（臨医総）	28
尿量異常（臨医総）	25
尿量異常（東洋医学臨床論）	62
尿路	10
妊娠	16
認知機能障害（臨医総）	25
認知症（臨医各）	32
認知症（東洋医学臨床論）	65
認知症の評価	41
任脈	56

ネ

熱	55
熱産生	15
熱傷（臨医各）	39
熱放散	15
ネフローゼ症候群（臨医各）	36
粘液水腫（臨医各）	37
捻挫（臨医各）	38
捻挫（東洋医学臨床論）	66
粘膜	9

ノ

脳炎（臨医各）	32
脳幹	16
脳幹における運動調節	18
納気を主る	54
脳血管疾患（臨医各）	31
脳血管障害後遺症（東洋医学臨床論）	62
脳血管性認知症（臨医各）	32
脳血栓（臨医各）	31
脳梗塞（臨医各）	31
脳死	21, 51
脳室系	11
脳出血（臨医各）	31
脳腫瘍（臨医各）	32
脳神経	12, 17
脳神経機能検査（臨医総）	27
脳性麻痺（臨医各）	40
脳性麻痺の症状	43
脳性麻痺の随伴症状	43
脳性麻痺の整形外科的治療	43
脳性麻痺の定義	43
脳性麻痺の二次的障害	43
脳性麻痺の分類	43
脳性麻痺の分類と症状	43
脳性麻痺のリハビリテーションとケ	43
ア	43
脳脊髄液	11
脳脊髄液（生理）	17
脳脊髄液の循環	17
脳脊髄液の生成	17
脳脊髄液の働き	17
脳塞栓	31
脳卒中回復期の言語聴覚療法	42
脳卒中回復期の在宅復帰に対する準備	42
脳卒中回復期の作業療法	42
脳卒中回復期の理学療法	42
脳卒中回復期リハビリテーション	42
脳卒中急性期の言語聴覚療法	42
脳卒中急性期の作業療法	42
脳卒中急性期の理学療法	42
脳卒中急性期のリスク管理	42
脳卒中急性期リハビリテーション	42

脳卒中生活期の介護保険制度の活用	42
脳卒中生活期の在宅でのリハビリテーション	43
脳卒中生活期の社会復帰	43
脳卒中による運動障害	42
脳卒中による感覚障害	42
脳卒中による痙攣	42
脳卒中による言語障害	42
脳卒中による高次脳機能障害	42
脳卒中による障害	42
脳卒中による摂食嚥下障害	42
脳卒中の分類	42
脳頭蓋	6
脳頭蓋をつくる骨	6
能動免疫	23
能動輸送	14
脳の血管	11
脳波（臨医総）	17
ノーマライゼーション	51
膿瘍（臨医各）	39
のぼせ（東洋医学臨床論）	61
ノロウイルス感染症（臨医各）	31

ハ

パーキンソニズム（臨医各）	32
パーキンソニズム（東洋医学臨床論）	63
パーキンソン症候群（臨医各）	32
パーキンソン病（臨医各）	32
パーキンソン病（東洋医学臨床論）	63
パーキンソン病の症状	44
パーキンソン病の生活指導	44
パーキンソン病の評価	44
パーキンソン病のリハビリテーション	44
バージャー病（臨医各）	34
バージャー病（東洋医学臨床論）	64
肺炎（臨医各）	33
肺炎球菌感染症（臨医各）	31
バイオエシックス	51
肺癌（臨医各）	33
肺気腫（臨医各）	33
肺機能	15
廃棄物処理	45
肺区域	8
肺結核（臨医各）	33
肺呼吸	15
肺循環	7
肺循環の静脈系	8
肺循環の動脈系	8
排除	21
肺水腫（臨医各）	33
排泄	54
肺塞栓症（臨医各）	33
バイタルサイン（生命徴候）	27

梅毒（臨医各）	31	鍼の概要	56	医各）	31
梅毒トレポネーマ（臨医総）	29	半規管	12	泌尿・生殖器の症候（臨医総）	25
排尿	15	半健康状態の定義	20	鼻粘膜	8
排尿機能障害（臨医各）	36	反射検査（臨医総）	27	脾の生理	54
排尿障害（臨医総）	25	反射弓	16	皮膚	12
排尿障害（東洋医学臨床論）	62	反射作用（あま指理論）	58	皮膚温の変化（経穴）	57
排尿中枢	16	反射の種類	16	皮膚・外表の症候（臨医総）	25
排尿痛（臨医総）	25	反射の特徴	16	皮膚感覚	18
排尿痛（東洋医学臨床論）	62	反射路	11	皮膚感覚の受容（あま指理論）	58
肺の構造	8	搬送法（臨医総）	30	皮膚感覚の伝導（あま指理論）	58
肺の触診（臨医総）	27	半透膜	14	皮膚筋炎（臨医各）	38
肺の生理	54	反応帯	57	皮膚疾患（臨医各）	39
肺非結核性抗酸菌症（臨医各）	33	反応点	57	皮膚腺	13
背部の筋	6	ヒ		皮膚電気抵抗低下現象	57
背部俞穴	56	悲	55	皮膚の観察（臨医総）	26
排便困難症（東洋医学臨床論）	62	非アルコール性脂肪肝（臨医各）	35	皮膚の血管	12
排便の仕組み	15	非アルコール性脂肪肝炎（臨医各）	35	皮膚の構造	12
肺胞	8, 15	非アルコール性脂肪性肝疾患（臨医各）	35	皮膚の神経	12
肺俞	57	非遺伝性疾患	20	皮膚・皮下組織の触診（臨医総）	27
廃用症候群の評価	41	冷え（東洋医学臨床論）	60	皮膚分節	17
胚葉の形成	4	皮下組織	12, 27	皮膚への影響（あま指理論）	59
白質	11	非機能性下垂体腺腫（臨医各）	37	飛蚊症（臨医各）	39
白体	10	鼻腔	8	鼻閉（東洋医学臨床論）	62
白内障（臨医各）	39	非行と犯罪	46	鼻閉・鼻汁（東洋医学臨床論）	62
曝露評価	46	尾骨	5	鼻汁（東洋医学臨床論）	62
橋本病（臨医各）	37	鼻骨	6	被包	21
播種	24	膝関節	5	非ホジキンリンパ腫（臨医各）	36
播種性血管内凝固症候群（臨医各）	36	膝関節痛（臨医総）	26	肥満（臨医総）	25
バセドウ病（臨医各）	37	膝関節の運動	7	肥満（東洋医学臨床論）	61
パターンリズム	51	膝関節の機能	42	肥満症（臨医各）	37
肌荒れ（東洋医学臨床論）	61	膝関節の徒手による整形外科的検査法（臨医総）	28	肥満症（東洋医学臨床論）	63
发育性股関節形成不全（臨医各）	38	膝靱帯損傷（東洋医学臨床論）	66	秘密保持義務	49
发育性股関節形成不全（東洋医学臨床論）	64	膝痛（東洋医学臨床論）	61	百合	56
発癌機序	24	膝半月板損傷（東洋医学臨床論）	66	脾俞	57
発癌の外因	24	膝陽関	57	飛揚	57
発癌の多段階説	24	肘関節	5	病院	51
発癌の内因	24	肘関節と前腕の機能	42	病因と遺伝	20
発癌理論	24	肘関節の運動	7	病因と環境	20
白血球	14	非自己	18	病因の主因	20
白血球（臨医総）	28	臂膀	56	病因の定義	20
白血球疾患（臨医各）	36	非上皮性腫瘍	24	病因の副因	20
白血球の働き	18	脾臓	8	病因の分類	20
八綱	55	肥大型心筋症（臨医各）	34	病因論	55
八綱による四診情報	55	肥大の原因的分類	21	評価とゴールの設定	41
八綱病証	55	肥大の定義	21	病原植物と健康	46
八綱病証の概要	55	ビタミン	15	病原動物と健康	46
発生	4	ビタミン欠乏症	20	病原微生物と健康	46
発声	18	ビタミン欠乏症（臨医各）	37	表在感覚の検査（臨医総）	27
発声の仕組み	18	皮電点	57	表在反射の検査（臨医総）	27
発生发育	21	鼻道	8	標準予防策	48
発生发育の異常	21	非特異性炎	23	表情筋	7
罰則	49	ヒト T 細胞白血病ウイルス感染症（臨医各）	31	病証判断の進め方	55
発熱（臨医総）	25	ヒトパピローマウイルス感染症（臨		病証論	55
鼻に開竅する	54			病的再生	21
パニック障害（臨医各）	39			病的反射の検査（臨医総）	27
歯の構造	9			表皮	12
鍼	56			病変と病状（症候）	20

病理学の定義	20
病理学の分類	20
日和見感染（臨医各）	31
平田十二反応帯	57
ビリルビン	28
ビリルビン尿（臨医総）	28
疲労回復（東洋医学臨床論）	66
疲労と倦怠感（東洋医学臨床論）	60
貧血（臨医総）	25
貧血（東洋医学臨床論）	62
貧血性萎縮	21
頻尿（臨医総）	25
頻尿（東洋医学臨床論）	62
頻脈性不整脈（臨医各）	33

フ

ファロー四徴症（臨医各）	34
不安障害（臨医総）	25
不安障害（臨医各）	39
不安定狭心症（臨医各）	34
フィードバック調節系	18
風	55
風市	57
風疹（臨医各）	31
風池	57
風門	57
不完全再生	21
腹囲の計測（臨医総）	27
複合感覚の検査（臨医総）	27
副交感神経系	12
副交感神経系（生理）	17
副甲状腺機能亢進症（臨医各）	37
副甲状腺機能低下症（臨医各）	37
副甲状腺のホルモン	16
複雑部分発作（臨医各）	33
福祉施設	51
腹診	55
副腎疾患（臨医各）	37
副腎髄質	11
副腎髄質のホルモン	16
副腎皮質	11
副腎皮質のホルモン	16
腹結	56
腹大動脈とその枝	8
腹痛（臨医総）	25
腹痛（東洋医学臨床論）	62
伏兎	56
副鼻腔	8
腹部の観察（臨医総）	26
腹部の筋	6
腹部の触診（臨医総）	27
腹部の打診（臨医総）	27
腹膜後臓器	10
腹膜内臓器	10
腹膜の基本構造	10
父権主義	51
不顕性癌	24
浮腫（臨医総）	25
浮腫（むくみ）（東洋医学臨床論）	61
浮腫と滲出液	22
浮腫と漏出液	22
浮腫（水腫）の原因的分類	23
浮腫（水腫）の種類	22
浮腫（水腫）の生成機序	22
浮腫（水腫）の徴候	23
浮腫（水腫）の定義	22
浮腫（水腫）の転帰	23
婦人科疾患（東洋医学臨床論）	63
不随意運動（臨医総）	26
不随意運動の検査（臨医総）	27
不整脈（臨医各）	33, 34
付属腺	10
物質移動	14
物質代謝	14
物理的因子と気圧	20
物理的因子と光線	20
物理的因子と電気	20
物理的因子と放射線	20
物理的環境と健康	46
物理的発癌因子	24
物理的方法（物理的消毒法）	47
物理的方法の実施法と注意	47
物理的方法の種類	47
物理療法（臨医総）	30
物理療法（電気、光線、温熱、水治、機械）（東洋医学臨床論）	60
ぶどう膜炎（臨医各）	39
扶突	56
不内外因	55
不妊（東洋医学臨床論）	61
不妊症（東洋医学臨床論）	64
不眠（東洋医学臨床論）	66
不眠症（臨医各）	40
不容	56
プリオン	20
プリオン病（臨医各）	32
聞診	55
分娩	16
糞便検査（臨医総）	28
分類	4

へ

平滑筋	4, 17
平均寿命	48
平均余命	48
平衡および聴覚伝導路	12
平衡感覚の性質	18
平衡聴覚器	12
閉塞性血管血栓炎（臨医各）	34
閉塞性動脈硬化症（臨医各）	34
閉塞性動脈硬化症（東洋医学臨床論）	63
乗風	56
ベーチェット病（臨医各）	38
ベッカー型筋ジストロフィー（臨医各）	32

ヘッド帯	57
ヘマトクリット（臨医総）	28
ヘモクロマトーシス（臨医各）	37
ヘリコバクター・ピロリ（臨医総）	29
ヘルスプロモーション	45
ベルテス病（臨医各）	38
ベル・マジヤンディーの法則	16
ベル麻痺（臨医各）	32
変形性関節症（臨医各）	38
変形性股関節症（東洋医学臨床論）	64
変形性股関節症の生活指導	44
変形性股関節症の特徴と評価	44
変形性股関節症のリハビリテーション	44
変形性脊椎症（臨医各）	20
変形性膝関節症（東洋医学臨床論）	63
変形性膝関節症の生活指導	44
変形性膝関節症の特徴と評価	44
変形性膝関節症のリハビリテーション	44
変形性腰椎症（東洋医学臨床論）	62
偏見	46
片頭痛（臨医各）	33
片頭痛（東洋医学臨床論）	63
変性疾患と黄疸	21
変性疾患と痛風	21
変性すべり症（臨医各）	38
変性と疾患	21
変性と主臓器	21
変性と無機質	21
変性の種類	21
変性の定義	21
片側顔面けいれん（臨医各）	32
便通異常	66
扁桃	9
扁桃周囲炎（臨医各）	39
便秘（臨医総）	25
便秘（東洋医学臨床論）	60
便秘症（臨医各）	35
扁平上皮化生	21
扁平上皮癌（臨医各）	33
偏歴	56

ホ

蜂窩織炎（臨医各）	39
防御機構に働く因子	18
防御機構に働く組織	18
胞育	57
膀胱炎（臨医各）	36
膀胱括約筋	10
膀胱癌（臨医各）	36
膀胱の構造	10
膀胱の生理	55
膀胱癌	57
房室ブロック（臨医各）	34

房事の不振生	55
放射線と健康	46
放射線検査（臨医総）	29
望診	55
法人の代表者等に関する罰則	49
乏尿（東洋医学臨床論）	62
乏尿（臨医総）	25
豊隆	56
募穴	56
保健・医療・福祉施設の連携	51
保健医療分野の国際協力	48
保健管理	47
保健教育	47
保健統計の意義	48
保健統計の種類	48
歩行異常（東洋医学臨床論）	61
歩行器	42
歩行周期	42
歩行障害（臨医総）	25
歩行障害（東洋医学臨床論）	65
歩行の観察（臨医総）	26
歩行の評価	21
歩行分析	42
歩行補助具	42
母指球筋	6, 7
ホジキンリンパ腫（臨医各）	36
母子保健	46
母子保健水準の指標	46
保存療法（臨医総）	29
勃起障害（臨医各）	36
発作型によるてんかんの分類（臨医各）	33
発作性上室性頻拍（臨医各）	34
発疹（臨医総）	25
発疹（東洋医学臨床論）	61
ボツリヌス症（臨医各）	31
ホメオスタシスとあん摩・マッサージ・指圧との関連	59
ホメオスタシスと緊急反応（あま指理論）	59
ホメオスタシスと恒常性（あま指理論）	59
ホメオスタシスの概要（あま指理論）	59
ホメオスタシスの提唱者（あま指理論）	59
ポリオ（臨医各）	31
ホルモンの一般的特徴	15
ホルモンの化学的性質	16
ホルモンの作用機序	16
ホルモンの種類	16
ホルモンの働き	16
ホルモン分泌の調節	16
本態性高血圧（臨医各）	34
本態性高血圧症（東洋医学臨床論）	62
本態性低血圧症（東洋医学臨床論）	62
本能行動の中樞	17

マ

マイコプラズマ感染症（臨医各）	31
麻疹（臨医各）	31
末期癌	24
マッケンジー帯	57
マッサージの運動法の種類	58
マッサージの運動法の生理的作用	58
マッサージの運動法の方法	58
マッサージの基本手技	58
マッサージの種類	58
マッサージの生理的作用	58
マッサージの絶対禁忌症	58
マッサージの相対禁忌症	58
マッサージの適応症	58
マッサージの方法	58
末梢神経系	12, 16
末梢神経疾患（臨医各）	32
末梢神経障害の評価	44
末梢神経障害の病態と原因	44
末梢神経障害のリハビリテーション	44
末梢神経麻痺の特徴	44
末梢性顔面神経麻痺（臨医各）	32
マトリックス	21
まぶた	12
麻薬及び向精神薬取締法	50
マロリーワイス症候群（臨医各）	35
慢性胃炎（臨医各）	35
慢性炎症	24
慢性肝炎（臨医各）	35
慢性冠動脈疾患（臨医各）	34
慢性気管支炎（臨医各）	33
慢性甲状腺炎（臨医各）	37
慢性硬膜下血腫（臨医各）	32
慢性骨髄性白血病（臨医各）	36
慢性糸球体腎炎（臨医各）	36
慢性疾患	20
慢性腎臓病（臨医各）	36
慢性腎不全（臨医各）	36
慢性膵炎（臨医各）	35
慢性頭痛（臨医各）	33
慢性白血病（臨医各）	36
慢性疲労症候群（臨医各）	38
慢性閉塞性肺疾患（臨医各）	33
慢性閉塞性肺疾患（東洋医学臨床論）	64
慢性閉塞性肺疾患の呼吸筋のトレーニング	43
慢性閉塞性肺疾患の呼吸理学療法	43
慢性閉塞性肺疾患の症状	43
慢性閉塞性肺疾患の評価	43
慢性閉塞性肺疾患のリスク管理	43
慢性リンパ性白血病（臨医各）	36

ミ

味覚	18
味覚器	12
味覚受容器	18
味覚障害（臨医総）	25
味覚伝導路	18
味覚の性質	18
水	15, 20
水の不足	20
水を主る	54
ミネラルの不足	20
耳・二陰に開竅する	54
耳鳴り（臨医総）	25
耳鳴り（東洋医学臨床論）	61
脈管疾患（臨医各）	34
脈診	55
脈拍	14
脈拍（臨医総）	27
味蕾	12

ム

無為萎縮	21
無機質	15
むくみ（東洋医学臨床論）	61, 66
無症候性キャリア	47
むずむず脚症候群（臨医各）	40
むちうち損傷（臨医各）	38
無尿（臨医総）	25
無尿（東洋医学臨床論）	62

メ

命門	56
メタボリックシンドローム	47
メタボリックシンドローム（臨医各）	37
メタボリックシンドローム（東洋医学臨床論）	63
滅菌の意義	47
メニエール病（臨医各）	39
メニエール病（東洋医学臨床論）	64
目に開竅する	54
目の疲れ（東洋医学臨床論）	66
眼・鼻・耳の観察（臨医総）	26
めまい（臨医総）	25
めまい（東洋医学臨床論）	61
メラトニン	11
免疫（衛生）	47
免疫異常	23
免疫学的検査（臨医総）	29
免疫寛容	23
免疫寛容の概念	23
免疫系に働く液性因子	18
免疫担当細胞	23
免疫に関する臓器	23
免疫の症候（臨医総）	25

免疫反応の分類	18	腰下腰痛（東洋医学臨床論）	60	論	65
免疫病	23	要穴	56	リハビリテーション医学の対象	41
免疫不全症（臨医各）	38	溶血性貧血（臨医各）	36	リハビリテーション医学の目的	41
免疫不全の概念	23	養生の概要	54	リハビリテーション医療	41
免疫不全の発生機序	23	腰神経	12	リハビリテーション医療の進め方	41
免許	49	腰神経叢	12	リハビリテーション看護の意義	42
免許証と変更	49	陽池	57	リハビリテーション看護の方法	42
免許取消し	49	腰椎	5	リハビリテーション・チーム	41
免許の効力	49	腰椎椎間板ヘルニア（東洋医学臨床論）	62	リハビリテーション治療	41
免許の申請	49	腰痛（東洋医学臨床論）	66	リハビリテーションの定義	41
モ		腰痛症（臨医各）	38	リハビリテーションの分野	41
毛細血管	7	腰痛症の生活指導	44	リハビリテーションの理念	41
毛細血管性出血	22	腰痛症の評価	44	リプロダクティブヘルス	46
毛細血管の循環	14	腰痛症のリハビリテーション	44	流行	48
盲腸	9	腰背部の観察（臨医総）	26	流行性耳下腺炎（臨医各）	31
網膜	12	陽白	57	梁丘	56
網膜剥離（臨医各）	39	腰部脊柱管狭窄症（東洋医学臨床論）	62	良導点	57
問診	55	羊膜	4	良性腫瘍	24
門脈圧亢進症（臨医各）	35	溶連菌（臨医総）	29	良性発作性頭位めまい症（臨医各）	39
門脈系	8	養老	56	両罰規定	50
門脈循環	22	陽陵泉	57	量－反応関係	46
ヤ		予後（病理学）	20	梁門	56
野球肩（東洋医学臨床論）	65	予防接種法	47	療養費制度	51
野球肘（東洋医学臨床論）	65	Ⅳ型アレルギー	23	緑内障（臨医各）	39
夜驚症（臨医各）	40	ラ		緑膿菌感染症（臨医各）	31
夜驚症（東洋医学臨床論）	64	ライフスタイルと健康	45	リラクゼーション（東洋医学臨床論）	66
薬害	20	絡穴	56	臨床検査法（臨医総）	28
薬剤性肺障害（臨医各）	33	ラクナ梗塞（臨医各）	31	臨床診断の意義（東洋医学臨床論）	60
薬物アレルギー（臨医各）	37	ラムゼイ ハント症候群（臨医各）	32	臨床診断の過程（東洋医学臨床論）	60
薬物依存	46	卵割	4	リンパ	4, 15
薬物療法の概要（臨医総）	29	卵管	10	リンパ液循環	22
やせ（臨医総）	25	ランゲルハンス島	11	リンパ液循環障害性浮腫	23
やせ（るい瘦）（東洋医学臨床論）	61	卵子形成	16	リンパ系器官	18
夜尿症（臨医各）	40	卵巣周期	16	リンパ系の概要	8
ユ		卵巣の位置	10	リンパ系の器官	8
憂	55	卵巣の構造	10	リンパ系の機能	15
有害事象（あま指理論）	58	卵巣のホルモン	16	リンパ行性転移	24
有害性評価	46	卵胞	10	リンパ節	8
湧泉	57	リ		リンパ節の観察（臨医総）	26
遊走	22	理学療法（臨医総）	30	リンパ節の触診（臨医総）	27
有訴者率	48	理学療法の定義	41	リンパドレナージの概要	58
憂・涕・皮毛を主る	54	罹患率	48	リンパ浮腫（臨医各）	34
誘導作用（あま指理論）	58	梨状筋症候群（東洋医学臨床論）	63	リンパ網内系疾患（臨医各）	36
有病率	48	リスク管理（あま指理論）	58	リンパ流出	23
有病割合（有病率）	48	リスク管理の概要（あま指理論）	58	ル	
俞穴（背部俞穴）	56	リスク管理の方法（あま指理論）	58	涙器	12
指の関節	5, 6	リスクマネジメント（東洋医学臨床論）	60	涙骨	6
俞府	57	リスク要因	45	るい瘦（東洋医学臨床論）	61
ヨ		リハビリテーション	51	流注の概要	56
腰下腰痛（臨医総）	26	リハビリテーション（臨医総）	30	レ	
		リハビリテーション（東洋医学臨床論）	65	蠱溝	57

レイノー症候群（臨医各）	34
レジオネラ症（臨医各）	31
列欠	56
裂肛（臨医各）	35
レビー小体型認知症（臨医各）	32
レンサ球菌感染症（臨医各）	31

ロ

老化	16, 21
労宮	57
労倦	55
労作性狭心症（臨医各）	34
漏出液	22
老人性萎縮	21
老人性疾患（加齢）	20
老人福祉法	50
労働災害	46
労働性肥大	21
ろ過	14
六淫	55
六淫（風・熱・湿・燥・寒・暑）	55
ロコモティブ症候群（臨医各）	39
肋間神経痛（臨医各）	33
肋骨	5

ワ

和漢薬の概要	56
ワクチン	23
腕骨	56
腕神経叢	12

欧文索引

A

ABO 式血液型	14
ADHD (臨医各)	40
ADL	41, 42, 43, 47
AED (臨医総)	30
AFP (臨医総)	29
AGA (東洋医学臨床論)	64
AIDS (臨医各)	38
ALS (臨医各)	32
ALT (臨医総)	28
ASO (臨医各)	34
ASO (東洋医学臨床論)	63
AST (臨医総)	28

B

BUN (臨医総)	28
-----------	----

C

CA125 (臨医総)	29
CA15-3 (臨医総)	29
CA19-9 (臨医総)	29
CEA (臨医総)	29
CKD (臨医各)	36
COPD (臨医各)	33
COPD (東洋医学臨床論)	64
CRP (臨医総)	29
CT (臨医総)	29

D

DIC	22
DIC (臨医各)	36
DNA	14

E

ED (臨医各)	36
ED (勃起障害) (東洋医学臨床論)	61

F

FD (臨医各)	35
----------	----

G

GVH	24
-----	----

H

HbA1c (臨医総)	28
HDL コレステロール (臨医総)	29
HIV (臨医総)	29

HTLV-1	31
HVG	24

I

IBS (臨医各)	35
IBS (東洋医学臨床論)	62
ICF	41
IgA 腎症 (臨医各)	36

L

LDL コレステロール (臨医総)	29
-------------------	----

M

MCI (臨医各)	32
MRI (臨医総)	29
MRSA (臨医各)	31

P

PET (臨医総)	29
pH (体液の)	14
POS (臨医総)	26
PSA (臨医総)	29
PTSD (臨医各)	40

Q

QOL	47
-----	----

R

RA (臨医各)	37
RA (東洋医学臨床論)	62
RF (臨医総)	29
Rh 式血液型	14
RICE (東洋医学臨床論)	65
RNA	14

S

SCC (臨医総)	29
SLE (臨医各)	37
SOAP 形式 (東洋医学臨床論)	60

T

TIA	32
TNM 分類	24
TOS (臨医各)	38
TOS (東洋医学臨床論)	62

V

VDT 症候群 (東洋医学臨床論)	63
-------------------	----

W

WHO の健康の定義	45
WHO の役割	49

γ

γ -GT (γ -GPT) (臨医総)	28
----------------------	----

